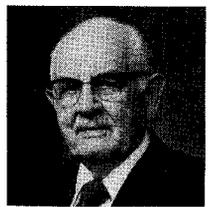
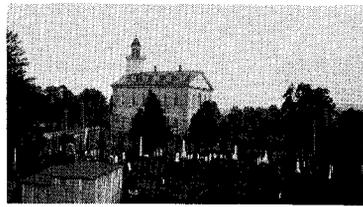


聖徒の道

1 1979





末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スパンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト
ジェームズ・E・ファウスト

顧問

マリオン・D・ハンクス
ロバート・D・ヘイルズ
ディーン・L・ラーセン
リチャード・G・スコット

教会誌編集主幹

ディーン・L・ラーセン

国際機関誌

ラリー・ヒラー (編集主幹)
キャロル・ラーセン (編集副主幹)
ロジャー・ギリング (デザイナー)

「聖徒の道」

赤松 成次郎 (翻訳部長)

表紙の説明

現在のクモラの丘(「教会史跡を巡る
写真の旅」p.33を参考) ジェド・A・
クラーク撮影

も く じ

| | | |
|---------------------------|--------------|----|
| 回復された教会の管理 | N・エルドン・タナー | 2 |
| 回復の時代 | グレン・M・レオナード | 15 |
| 教会および世界史年表 | | 23 |
| 教会史跡を巡る写真の旅 | | 24 |
| 「ぼく、手助けしたいんだ」 | | 37 |
| トミーのけいけん | | 38 |
| 開拓者の旅 | | 40 |
| 小さなお友だちへ | | 42 |
| 現代における神のみ声 | | 45 |
| 主ご自身のはしがき： 教義と聖約から望むこと | ロイ・W・ドクシー | 46 |
| 教義と聖約の歴史的背景 | ウィリアム・E・ベレット | 50 |
| 教義と聖約読書課程 | | 58 |
| ローカル・ニュース | | 59 |

聖徒の道 | 月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5-10-30

印刷所 株式会社 精興社

配 送 東京ディストリビューション・センター
東京都世田谷区上用賀4-9-19

定 価 年間予約1,700円 1部150円
海外予約1,700円

INTERNATIONAL MAGAZINE PBMA 0493 JA Printed in Japan

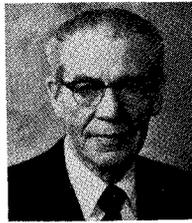
郵便振替口座番号 東京0-41512

口座名 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

(左の絵の説明)

ノーヴー神殿。教会2番目の神殿、1841年に着工し、1846年に献堂される。聖徒たちが市を追われるまでしばらくの間、死者のためのバプテスマやエンタウメントの儀式が行なわれた。神殿は1848年の火災と1850年の大暴風雨によって完全に破壊され、黒ずんだ壁だけがその面影を留めるのみとなった。画：スティープン・ベアード(1967年)、古い写真や絵をもとに製作。

回復された教会の 管 理



第一副管長
N・エルドン・タナー

◇ ◇
1978年1月8日、ブリガム・ヤング大学マリOTTセンターにおける
同大学全ステーク部の学生を対象としたファイアサイドでの説教より
◇ ◇

皆 さんは、啓示の上に建てられ、神の予言者を通じイエス・キリストによって導かれているイエス・キリストの教会の一員である。このことをご理解いただきたい。また同時に、この教会がどのように運営されているかについても知っていただきたいと思う。これは非常に大きなテーマである。したがって概略的な話に終始するかもしれないが、その時は許していただきたい。

皆さんに思い起こしてもらいたいことがある。それはこの地がほかならぬ私たちのために創造されているということである。私たちはこのことを啓示を通して知っている。それを個人個人の立場に当てはめて考えてみたい。地球は私たちのために創造された。この世に住み、主の教えに従い天父のみ前に帰る準備をするための場として与えられた。天上の大会議でイエス・キリストは世の救い主として選ばれ、私たちが永遠の生命を享受できるようにこの地上に来て自ら命を捨てられた。私たちが属している現在のこの教会は、少年のジョセフ・スミスに父なる神と御子イエス・キリストが現われた結果設立され、以来ジョセフ・スミスは啓示によって絶えざる導きを受けてきた。私たちにはモルモン経がある。その起源についてはよく御存じだと思う。詳しくお話する時間はないが、これは啓示によって翻訳された書物である。また私たちの教会には、アロン神権とペテロ、ヤコブ、ヨハネによって回復されたメルケゼデク神権がある。

教会の設立についてこう記されている。「この末の世に於けるキリストの教会の起りは……

神意と神命によりて、……

すなわちこの神命は神によりイエス・キリストの使徒の聖職に按手任命せられて、当教会第一の長老となりたるジョセフ・スミス(二代目)に下りたるものなり。」(教義と聖約20:1—2)

さらにこうある。

「見よ、汝らの中に誌さる一つの記録あらん。その記録に於て、父なる神の御こころと汝らの主イエス・キリストの恩恵とにより汝は聖見者、翻訳者、予言者、イエス・キリストの使徒、教会の長老と称せられん。」(教義と聖約21:1)

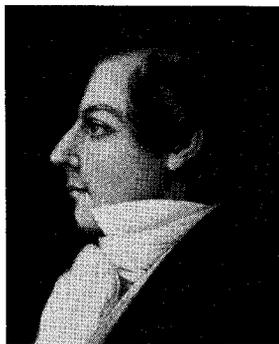
教会は民主主義、つまり選挙によって選ばれた代表者によって治められているという話をよく聞かすが、教会は神が選ばれた代表者を通して神によって治められる神権政体である。教会の信仰箇条には次のように述べられている。

「われらは、福音を宣べ、且つその儀式を執り行うためには、啓示と、権威ある者の按手により、神によりて其任に召されねばならぬことを信ず。」(信仰箇条第5条)ジョセフ・スミスが主によって教会の大管長に選ばれ、主から権威を授けられた人々により任命されたのはこの方法によるのである。

教義と聖約 107 章を読むと、いつも心に強い証がよみがえってくる。この章では、神権のもろもろの役職が挙げられ、その義務が教えられている。その一部を引用しよう。

「メルケゼデク神権を有てる者の中三人の管理大祭司あり、当団体によりて選ばれ、その職に任命して按手聖任され、教会員の信任と信仰と祈りによりて支持せられ、当教会の

1960年から1976年にかけて、
合衆国とカナダ以外の国々における会員増は
397パーセントにのぼる。



ジョセフ・スミス

大管長会なる定員会を構成す。

また、大神権の職を管理する長たる者の義務は全教会を統轄すべきものにして、モーセの如くあるべし。

すなわち、見よ、この教会の頭首に神の与えたもうあらゆる賜を有し誠に彼は聖見者たり、啓示を受くる者たり、翻訳者たり、また予言者たり……」（教義と聖約107：22，91—92）

また次のようにも記されている。

「十二人の巡回評議員は召されて十二使徒となる、すなわち全世界に於けるキリストの御名の特別の証人となるべき者なり……。

またこの十二人は、前記の三人の管理大祭司と權威と權能とを同じくせる定員会を構成す。」（教義と聖約107：23，24）

『予言者ジョセフ・スミスの教え』には次のように書かれている。

「スミス大管長は次に十二使徒会の義務と、大管長会に次ぐ彼らの權威とについて説明を始めた。……また十二使徒会は大管長会以外のどこにも従属しない。すなわち、予言者が言うには、『私と現在の副管長であるシドニー・リグドン、フレデリック・G・ウィリアムズ、そして私がない場では（大管長をさす）十二使徒を統轄する大管長会というもの

は存在しない。』(pp. 105—6)

ジョセフ・スミスの死去に伴い、ブリガム・ヤングを会長とする十二使徒会が教会を管理することになった。彼らは3年半の間、教会の諸事を取りしきった。その後ブリガム・ヤングが教会の大管長に選ばれ、彼が副管長を選び、任命した。彼の死後3年2カ月たって大管長にジョン・テイラーが任命された。ジョン・テイラーの死後は、1年9カ月でウィルフォード・ウッドラフが大管長に選ばれ、聖任された。それ以来、大管長の死去から次期大管長の任命まではほんの数日を待つだけとなった。

私は、1973年12月26日にハロルド・B・リー大管長が突然に他界してから後のことを具体的に説明したいと思う。アリゾナ州フェニックスで娘一家とクリスマスを過ごしていた時に、リー大管長の秘書であるアーサー・ヘイコック兄弟から電話を受けた。リー大管長が重病であるため、できるだけ早く帰宅してほしいとのことであった。それから30分後にまた電話があって、「主のみ旨によって、リー大管長は今もとに召されました」と言われた。

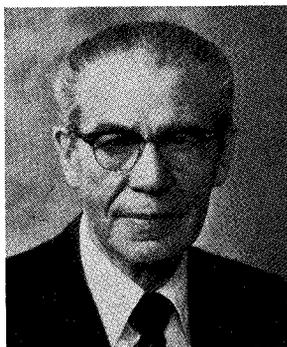
私が不在のためロムニー副管長が教会の事務を管理していたが、そのロムニー副管長と十二使徒評議員会のスペンサー・W・キンボール会長が病院に駆け付けていた。リー大管長の死後直ちに、ロムニー副管長はキンボール会長に向き直って「あなたにお任せします」と言った。リー大管長の死去から十二使徒会が教会の管理権を引き継ぐまでもの1分もかからなかったのである。

リー大管長の葬儀に引き続いて、キンボール会長は12月30日日曜日の午後3時、ソルトレーク神殿の会議室に使徒たちを召集した。ロムニー副管長と私が先任順に従って十二使徒評議員の席に加わったので、出席者は総勢14人になった。讚美歌を歌い、続いてロムニー副管長の祈りがあり、キンボール会長が心からへりくだって彼の思いを述べた。キンボール会長は先日の金曜日に神殿で主と語り、新しい責任を引受けそして副管長を選ぶための導きを得て祈った時、涙が出て止まらなかつたと言われた。

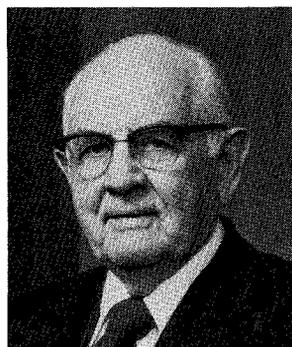
私たちは神殿衣をまとい、祈りの輪をつくった。キンボール会長は私に司会を頼み、トーマス・S・モンソン長老に祈りをお願いした。その後で、キンボール会長は集会の目的を説明し、エズラ・タフト・ベンソン長老から始めて定員会の会員を先任順にひとりずつ呼び、大管長会をその日に組織するか、それとも十二使徒評議員会で継続するか意見を求めた。全員が「今、組織すべきです」と答え、キンボール会長と十二使徒当時の彼の働きに関して賛辞を述べた。

それからエズラ・タフト・ベンソン長老が、教会の大管長としてスペンサー・W・キンボールの名を提案した。続いてマーク・E・ピーターセン長老が支持を表明し、満場一致で承認された。その後、キンボール会長はN・エルドン・タナーを第一副管長、マリオン・G・ロムニーを第二副管長に指名し、ふたりはそれぞれ、その役職を喜んで受け、全精力、全時間を捧げて働くことを表明した。このふたりの副管長も満場一致で承認された。その

リー大管長の死去から、
十二使徒会が教会の管理権を引き継ぐまで
ものの1分とかからなかった。



第一副管長
N・エルドン・タナー



大管長
スペンサー・W・
キンボール

後、十二使徒の次席会長であるマーク・E・ピーターセン長老が、エズラ・タフト・ベンソン長老を十二使徒評議員会の会長に指名した。これも満場一致で承認された。

そこで出席者全員がスペンサー・W・キンボール長老の頭におき、エズラ・タフト・ベンソン会長が彼を末日聖徒イエス・キリスト教会の第12代大管長に聖任した。それから、キンボール大管長がN・エルドン・タナー長

老を大管長会第一副管長に、マリオン・G・ロムニー長老を第二副管長に任命した。キンボール大管長は同じようにしてエズラ・タフト・ベンソン長老を十二使徒評議員会会長に任命し、祝福を授けた。

十二使徒が11名になったので、定員会の空席を埋める新しい人物を召すことが必要になった。教会幹部がどのようにして召されるかは、興味あるところだと思う。大管長は十二

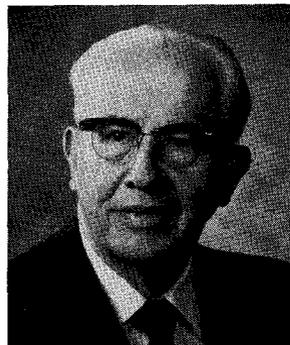
使徒たちに、新たに使徒に召されるにふさわしいと思う人の名前を推薦してもらい、また自分でもふさわしいと思う人の名前を考えて、最終的には、靈感と啓示によって選ぶのである。召しは神の靈感と啓示によるものであり、事実上その教会幹部は召しと任命を受ける前

から神によって指名され十二使徒評議員会の承認を受けているのである。

このことに関してひとつの例をお話したい。ヒーバー・J・グラント大管長が実際に経験したことだが、彼が十二使徒評議員会の会員であった時、大管長から十二使徒の空席を埋



第二副管長
マリオン・G・ロムニー



十二使徒評議員会会長
エズラ・タフト・ベンソン

める人物の候補者として氏名の提出を求められた。そのたびに彼はごく親しいひとりの友人の名を挙げた。しかしその人は一向に選ばれなかった。そこでグラント大管長はある時、もし自分が大管長になって、十二使徒会に空席があったら、その人は実にふさわしい人なので彼を召すことにしようと考えた。

やがて彼が大管長になり空席の補充が必要になった。彼には、望む人がいた。しかし自

分は主のみこころにかなう人を選びたいと主に祈った。その時、グラント大管長の頭に浮んできたのは、個人的にはあまり知らないメルビン・J・バラード長老の名前であった。しかもその名前はずっと彼の頭を離れなかった。こうしてグラント大管長はメルビン・J・バラード長老こそ召すべき人であることを知り、結局バラード長老が指名され、十二使徒によって承認されたのであった。

次に、私自身の経験もお話しておきたい。私は1960年10月カナダのアルバータ州カルガリステーク部のステーク部長であった時に、ソルトレーク・シティーの総大会に出席した。金曜日の夜にホテルに電話があって、マッケイ大管長が翌日、土曜日の朝に私と会いたいということであった。当然、何の話があるのか気になり、その晩は熟睡できなかった。私は約束の時刻に大管長の事務室で大管長と会った。私が彼と向き合った椅子に腰を下ろすと、彼は私の目を見詰めて、手を私のひざに置き、こう言った。「タナーステーク部長、主があなたを十二使徒補助として教会幹部に召すことを望んでおられます。」そして、マッケイ大管長は私の気持ちを尋ねた。

私はその時どう答えたか、はっきり覚えていない。身に余る光栄と思い、非常に不適格とは思いますが、喜んで召しを受け、すべての時間と精力を傾けて主のみ業に携わるつもりであることを伝えた。

その朝、私の名前がフランクリン・D・リチャーズ、セオドア・M・バートンの両長老と共に呼ばれ、十二使徒補助に支持された。私たちは大会で承認された。全教会の役員はそれぞれのレベルで、これとまったく同じ方法で選ばれる。

ここで「不賛成」の挙手をした人についてはどう扱うかという疑問に答えたいと思う。一度、1977年10月の大会でそういうことがあった。その模様について聞き及んでいる方は、反対者が反対の挙手の記録を残させようとしたことを思い出されるであろう。不賛成の挙手については次のような手続きを取る。反対

したひとりを除く出席者全員が支持したので、私は彼にヒンクレイ長老に会っていただいた。その目的は、提案された役員を支持できない理由を聞くためである。彼にその機会を与えて、支持するにふさわしくない正しい理由を彼がもし知っているのであれば、それを面接した相手に告げ、面接者が大管長会にその旨を伝えるのである。

私は、ニュージーランドにステーク部を再組織する召しを受けた時の経験をここで、お話したいと思う。ニュージーランドの会員で私が過去に会っているのは、それまでのステーク部長ただひとりであった。私はニュージーランドのステーク部の監督と高等評議員のリストを頼んで、そのリストを読み通した。するとその内ひとりの名前が印象に残った。キャンベルという名であった。何度リストを読んでみても、そこに目が行った。バンデンバーグ監督も同行していて、導きを祈った後、ふたりで全員を面接した。

面接が全部終わると、私はバンデンバーグ監督に、「主に導きを願います」と言った。こうして祈り終えた後、「もしあなたに責任があったら、ステーク部長にだれをお選びになりますか」と彼に尋ねた。

するとバンデンバーグ監督は「ビル・キャンベル兄弟です」と答えた。私は彼の名を口に出してバンデンバーグ監督に言ったことは一度もなかった。これは主が任命に当たって導いておられることのひとつの証拠である。

ここで十二使徒の仕事を幾つか簡単にご紹介しよう。十二使徒評議員会は、大管長会の指示の下に宗務の全般に責任を負う。七十人第

一定員会会員が受け持つ教会の宗務を監督するのもその責任である。7月を除き年中全世界の教会で毎週行なわれているステーキ部大会の日程を組み、教会幹部の出席を割り当てるのも責任である。

全教会幹部はステーキ部大会の土曜日の夜の集会と日曜日の一般大会に出席して、その地域の教会員がより良い生活を送ることができるよう励ましを与えるために熱心に自分を備えている。そしてステーキ部長会やステーキ部役員と会合し、進歩状況や改善の方法を話し合う。教会幹部は、大会の責任や旅行などのために最低2日、長い時は3、4日から2週間、家を留守にする。

十二使徒評議員会は新しく召された伝道部長のセミナーと年1回の地区代表セミナーを計画する。教会の宗務上のプログラムに関して教会全体の活動を監督する責任もある。(木曜日の集会やその他で大管長会と十二使徒会が行なうことについては後で説明するつもりである)十二使徒評議員会は、ステーキ部大会に出席した教会幹部の報告を聞き、改善の方法を討議するための集会を定期的に持つ。

七十人についてお話する前に、繰り返し申し上げておきたいことがある。教会が発展するにつれて助け手が必要になり、そのため十二使徒補助が任命されることとなった。その後、十二使徒会地区代表が召されて、もっと密接にステーキ部役員と接触して直接に援助を与えることができるようになった。

教会が発展して、大管長会と十二使徒評議員会が七十人第一員会の発足を決めたのが1970年代であったのは興味深い。当時十二使徒補

助に任命されていた人々が七十人に聖任されて、七十人第一員会の会員となった。

さらに多くの地区代表が任命され、遠隔の伝道部やステーキ部が教会事務を補助するように召された人々と身近に接触できるようになった。この地区代表は、ステーキ部、ワード部、伝道部の運営に多くの経験を積んだ人である。

さて、七十人についてはこう記されている。「『七十人』は十二使徒会……の指揮の下に教会を設立し、またよろずの国民に於ける教会のあらゆる事務を整理するに主の御名によりて行い、……」(教義と聖約107:34)もう一度読んでみたい。「教会を設立し、またよろずの国民に於ける教会のあらゆる事務を整理する」と書かれている。この七十人の責任については後でもっとお話ししたいと思う。

教会の大祝福師は祝福を求めて来る教会員に祝福を与える。また、時々割り当てを受けて教会中を回り、伝道部や祝福師のいない地域で祝福を施す。

管理監督会の会員は、大管長以外の教会幹部と同様の手順で召され、聖任される。またどこのステーキ部、伝道部と特定されず、どの地域からでも選ばれる。そして大管長会の指導の下に、教会の実務面の管理に当たる。

教会がどのように管理されているかをご説明したい。教会の運営に関することはすべて大管長会の指導下にあるが、事務はおおよそ3つの領域に分けられる。第1は大管長会が直接に管理する事柄、第2は大管長会の指導下において十二使徒が管理する宗務、第3は大管長会の指導下において管理監督会が管理

する実務である。

大管長会が直接に管理する事柄を幾つか挙げてみよう。地域大会、聖会、および予算、教育、歴史、人事の各部門、神殿、監査、相互調整評議会福祉活動などである。

十二使徒の管理下には、現在5つの部門がある。各部門は十二使徒の指示の下に2、3人の七十人がそれぞれの職員と共に運営に当たっている。その部門とは、神権、伝道、糸図、指導者養成、相互調整である。この内の2、3の部門について簡単にご紹介したい。神権部門はメルケゼテク神権、アロン神権、補助組織用の指導資料、テキスト、手引きを作成し、その利用法を決める。さらに活動プログラムを監督し、また教会の定期刊行物を担当する。

相互調整部門は学習コースの全資料や教会の定期刊行物に掲載する教義や規準などを調べ、相互調整委員会に報告する。相互調整委員会は以上4部門の各管理部長と相互調整部門の管理部長および管理監督と教育委員長によって構成されている。ここで個人に神殿活動、伝道活動および教会の各組織の責任、さらに生活面でより良い備えをさせるためのアイデアを出し合い、指導、訓練を行なうための全資料が相互調整される。つまり教会の全プログラムの目的は個人が永遠の生命を受けられるよう備えさせることである。

伝道部門は宣教師養成あるいは伝道活動で使う伝道資料を準備し、宣教師に伝道地を割り当て、訪問者センターの運営、管理を行ない、その他伝道活動に関連した事柄を処理する。

宣教師がどのようにして召されるか、その手順には皆さんも興味をお持ちであろう。監督は両親に話す前に宣教師志願の当人にまず話をする。だれにも知られない前に、その人がふさわしいかどうか、どういう考えを持っているかなどを判断するためである。その人がふさわしく、また伝道を望んでいると分かった場合、監督はそのことを両親に話し、万事整ってからその兄弟（あるいは姉妹）をステーキ部長に推薦する。ステーキ部長はその人と面接して資格と態度を見る。そしてふさわしく、しかも喜んで伝道に出たいという気持ちがあると判断したら大管長会に推薦する。

どの伝道地に派遣するかを決めるに当たっては、推薦状に記された本人の適性、またその時点で宣教師が必要な伝道部など幾つかの点が考慮される。そして靈感により、その人が最も良く主に仕えることのできる伝道地へ召されるのである。大管長からの召しが本人に届くと、宣教師はそれを受け取り次第、大管長に返事の手紙を送ることになっている。

宣教師の召しについてある話を思い出す。それは主のみ業が主の靈感によって導かれていることを示すものである。そのような話は幾らでもあるが、一例をご紹介します。ある時、伝道部門の幹部書記が召しの手紙を宣教師志願者たちに送った後、合衆国西部のある伝道部に割り当てを受けた青年の母親から電話がきた。その青年の父も祖父もドイツで伝道し、ドイツの伝道を希望していたので、自分も夫も非常にかっかりしたという話であった。

書記がその母親に、青年はどう思っていま

すかと聞いたところ、学校に行っているので帰らない内に自分が手紙を開封したという。本人はまだ自分の伝道地を知っていなかったのである。書記は、大管長から青年が受取るべき大切な手紙を母親が開いたことに驚きの気持ちを書き、青年が自分で手紙を読んだ後でまた電話をほしいと言った。

その翌日、母親から謝罪の電話が入り、青年は召しをひたすら喜んでいたという。青年は内心外国で伝道する召しを受けないように祈っていたということであった。

さて、ここで地方分権とでも言うべきことに関してであるが、教会の世界的発展により、中央からの分散、特に教会が著しい発展を遂げている地域では教会員の組織と訓練が急務となっている。新しい支部、地方部、ワード部、ステーク部は、教会の運営に関して経験の少ない教会員が大半である。例えば、私が2年前にベネズエラのカラカスを訪問した時、伝道部長は教会員の集会を開いたが3~400人いた出席者が皆教会に入って5年未満であった。去年はカラカスにステーク部が組織されたが、教会経験が一番長い人でたったの7年であった。このような発展途上の地域の教会の組織に多くの訓練と援助が必要なことは、だれの目にも明らかである。

1960年から1976年、すなわち私が教会幹部に在職している期間に教会がどれほど発展したかということであるが、教会員数がこの間に以前の2倍を越えた。合衆国とカナダ以外で、会員数は397パーセントの増加である。この6年間で合衆国とカナダ以外のワード部数は278から892に増え、ステーク部数は48か

ら143に増えた。1977年9月の統計をご紹介しますと、ステーク部862、ワード部5648、ステーク部内の独立支部1495、伝道部158、宣教師24,000名あまりである。

このような責任の拡大に対処するため、私たちは世界をゾーンとエリア（地域）に分け、それぞれゾーンアドバイザーと地域担当教会幹部が管理するようにした。合衆国外には5つのゾーンと12の地域がある。合衆国内および国外ともゾーンアドバイザーと地域担当教会幹部は全員が七十人第一定員会の会員である。ゾーンアドバイザーは教会本部に留まり、合衆国とカナダ以外の地域の地域担当教会幹部はそれぞれ自分の地域内に居住することになっている。

地域担当教会幹部は地区代表を管理する。地区代表は前にも述べたように、経験豊かな適任者で、できればその地域に近い場所に居住する人が望ましい。地区代表はそれぞれ幾つかのステーク部、伝道部を指導する。これにより、ステーク部、伝道部の指導者はソルトレーク・シティーの本部から直接に指示を受けることなく、地区代表を通じて地域担当教会幹部と定期的に接触を持ち指示を受ける。地域担当教会幹部は処置が必要な種々の問題に速やかに対応することができるからである。この方法によって、地方レベルに多くの訓練と援助が施される。地域担当教会幹部はゾーンアドバイザーに報告し、ゾーンアドバイザーは十二使徒評議員会に報告する。

さて、次に管理監督会の責任を見てみよう。先に指摘したように、管理監督会の会員は大管長会から割り当てられた実務全般に責任を

負う。その中には、宗務部門からの要請に基づき、土地を取得し、建物を建て、それを維持するといった施設管理のほかには、財政、会員記録、断食献金、什分の一、購買、翻訳、配送などの関連事務の管理も含まれる。また福祉事業部を指導する大きな責任もある。そこで実施される主要なプログラムや方針は大管長会、十二使徒評議員会、管理監督会、扶助協会会長会から成る福祉活動委員会で決定される。福祉活動プログラムには、全世界のデゼレト産業関連事業やステーキ部、ワード部、伝道部の福祉プログラム、監督の倉庫などがある。

これらの事柄を合衆国とカナダ以外で実施するために地域管理監督がいて、割り当てられた地域内に住みながら地域の実務を管理する。これによって、地域の教会員が持つ問題に迅速に対応し、地域で適切な訓練を施すためである。地域担当教会幹部と地域管理監督はあらゆる事柄に対して完全に協力して働く。

次に大管長会であるが、大管長会は毎週、火、水、木、金曜日の午前8時、議事録を作成する書記を交えて会合を持つ。討議には大管長会に寄せられた通信物も加えられる。取るに足らない小さな質問から、ステーキ部長会と高等評議員会による破門の決定まであらゆる事柄がある。服装や身だしなみの標準、催眠術、安息日の守り方、聖句の解釈、集団感受性訓練、結び固め、地域の役員に対する不満、靈魂再生説、献体や臓器移植、火葬、法律問題、そのほか際限がない。

それに加えて、新しい神殿長会の選任や神殿用地の選定、建築時期の決定、十二使徒評

議員会や管理監督会との会合で話し合う議題の決定もある。聖会や世界各地で開催される地域大会の計画も立てなければならない。

火曜日の朝10時から、大管長会と4名の十二使徒と管理監督会で構成される支出承認委員会の会合がある。ここでは、各部門の長から提出された支出案を検討し、予算配分を決定する。一例として、総合施設部からはステーキ部、ワード部、伝道本部、訪問者センターなどの土地と建物の取得にかかる経費や維持費の支出申請が提出されると、それについて話し合われる。また管理監督会は福祉計画に要する経費の申請をする。

水曜日の大管長会の会合では、歴史部、人事部、広報部など大管長会の直接の管轄下にある各部門の長から報告を聞く。重要な訪問者との面会は水曜日の午前中に組み込まれる。私は訪問者から直接、間接に、手紙や口頭で大管長の印象を伺い、大管長の影響力の大きさにいつも感銘を受けている。

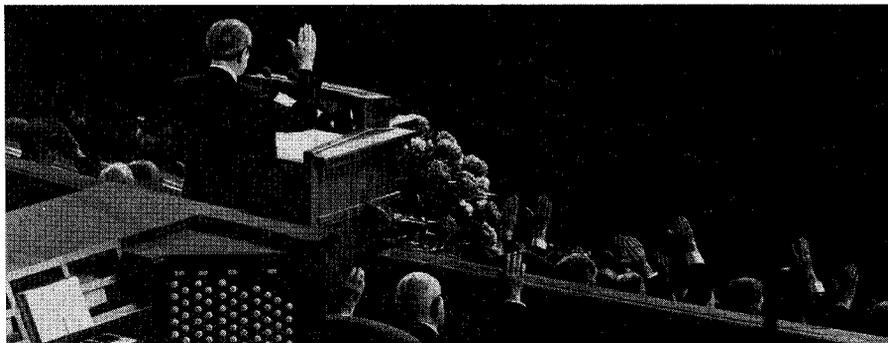
月に1回の水曜日は、大管長会と教会教育委員会と理事会の合同の会合を開き、大学やインスティテュート、セミナーその他教会学校に関連した全事項を処理する。また月に1回別の水曜日には、大管長会、十二使徒評議員会、管理監督会で構成する相互調整委員会が開かれる。ここでは管理上の問題を討議決定して、全部門の責任を明確にし、その調整を図る。この会に引き続き、先に述べた福祉活動委員会が行なわれる。

木曜日は午前10時から、神殿の会議室で十二使徒評議員会と会合する。すでに十二使徒たちは8時から会を開いている。神殿が建て

られて以来、教会の指導者はこの部屋で主から導きを受けてきた。指導者たちはここで特別な霊的な気持ちを経験し、しばしば過去の偉大な指導者たちの存在を感じることもある。12人の大管長と大祝福師のハイラム・スミスの肖像画が壁に掛けられており、また救い主がガリラヤ湖で弟子たちを召している絵やそのほか救い主が十字架に掛けられている絵や昇天する姿を描いた絵などもある。私たちはこの会議室で、かつて多くの立派な指導者たちがここに座り、主の導きの下で重要な決定をしたことを思い巡らすのである。

木曜日の朝10時に大管長会がこの部屋に入って来ると、十二使徒全員と握手を交わし、神殿衣に着替える。讃美歌を歌い、それから聖壇の周りに祈りの輪をつくり、ひざまずいて祈りを捧げた後再び普段の服に着替える。

前回の議事について話し合った後、次のような事項について検討する。ステーキ部長の推薦による監督会の変更の承認——これはあらかじめ十二使徒の集会で討議済みである(ちなみに申し上げると1977年一年間で毎週平均して25から30人の新監督が承認された)、管轄区域や役員の変更を含む世界中のステーキ



役員支持の挙手を求める N・エルドン・タナー第一副管長

召しは神の靈感と啓示によるものであり、事実上その教会幹部は召しと任命を受ける前から神によって指名され、十二使徒評議員会の承認を受けているのである。

部、ワード部、伝道部、神殿の組織上の変更、補助組織の役員と運営、各部門の長から出された懸案、ステーキ部大会その他、葬儀、講演会などで説教をした時の報告など。管理や方針の変更を考慮、承認するのはこの場であり、この会を経て初めて教会の公式な方針となるのである。この話し合いについてひとつの経験をお話したい。

私は今でもその時のことをよく覚えているがある事柄について十二使徒たちの見解が異なり、各々率直に意見を述べ合ったことがあった。マッケイ大管長が討論をまとめ「私はこうすべきだと考えます」と言った時、私は隣の兄弟にこう言った。

「大管長が必ず正しい答えをまとめて下さるのは素晴らしいことですね。みんながそれは正しいと感じられるではありませんか。」

すると同僚は私に向かって、「神の予言者ですから」と答えた。このようにして、ここでの決定は決定以前の各々の気持ちにかかわらず、全員一致の決定となるのである。

毎月第一木曜日は大管長会と全教会幹部すなわち十二使徒、大祝福師、七十人、監督会の集会がある。この会でプログラムや手続きの変更が発表され、各自の義務と責任が指示される。大管長が証を述べる人を指名し、その後全員が神殿衣に着替えて聖餐を受け、全員で祈りの輪をつくる。祈りがすべて終わると大管長会と十二使徒評議員会を除く全員が退出し、残った人々は服を着替えて通常の木曜日の事務に就く。そこで言われたことや行なわれたことは書記が記録して報告する。

木曜日の集会が終わると、大管長会と十二

使徒評議員会は特別に用意された部屋で昼食を取る。この部屋には最後の晩餐の美しい絵が掛かっている。くつろいだひとときに、経験談や共通の話題がはずむ。時間があればその中から幾つかのおもしろい話をご紹介できるのだが……金曜日の午前9時には、大管長会と管理監督会が会って、運営上の問題について報告を受け、話し合いを行なう。

御存じのように教会はボネビル・インターナショナル・コーポレーション、ベネフィット・ショナル生命保険会社、ホテル・ユタ、ザイオンズ・セキュリティーズ・コーポレーション、デゼレト新聞社、デゼレト・ミューチュアル・ベネフィット・アソシエーションなどの教会と公共に奉仕する会社を所有している。教会が税金を払っていないという誤解が一部にあるが、それを正しておきたいと思う。教会所有の会社はすべて、他の会社と同様に税金を払っている。

私たちは常に、それこそ毎日、次のように願い、祈っている。教会が大管長会、十二使徒評議員会、大祝福師、七十人第一定員会、管理監督会などの責任ある地位にある人々より、主のみこころのままに管理運営され、地域の役員が祝福され、導かれるようにと。私は、この教会が神の予言者を通じ、主ご自身によって導かれていることを証し、私たちすべてがそのことを知り、教会員であることを感謝し、永遠の生命を受けるべく熱心に備えることを心から祈るものである。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

回復の時代

グレン・M・レオナード

福音と真の教会の回復についての説明は、末日聖徒であればだれでも知っているあのジョセフ・スミスの最初の示現に始まるのが常である。しかし教会歴史シリーズの序文

として、教会の回復が起きた背景を詳しく見るのも価値あることである。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長の言葉を借りれば、まさにそれは「より良い時代の夜明けが



1830年教会の組織に加わった6人。ジョセフ・スミス・ジュニアは彼らの面前で啓示を受け、それが現在の教義と聖約20章となっている。主はこの啓示を通して、この神聖な集会で支持された管理役員を承認された。

回復の時代

国々に訪れた」ということである。(「教会歴史粹」第11版 p.18)

合衆国において宗教の自由にたどりつくまでの長い歴史の道程は数百年をさかのぼる。宗教改革は御存じのように中世の教会に対するマルチン・ルターの抗議文によって口火を切ったが、ことジョセフ・スミスと関わりのあるニューイングランド地方の宗教に関する限り、より重要なキリスト教改革者はスイスの神学者、ジョン・カルビンである。イギリスの清教徒の一団が既存の教会から離反して北米の植民地に居を求めたのは、カルビンの教えの影響だったのである。こうして清教徒はアメリカの宗教観を形成する諸概念の確立に寄与した。一例として、彼らは自らを、新世界にシオンの町として優れたキリスト教社会を建設する神の選民と見ていた。

それだけではなかった。確かに清教主義はイギリス植民地に圧倒的な影響力を持っていたが他のキリスト教各派も植民地に根を下ろすにつれて、宗教の多様性を持つ国としてのアメリカを特色付けるようになったのである。1776年のアメリカ独立戦争では政教分離の政治的風土ができ、宗教の自由に大きく貢献した。政教分離の動きが新生国家に広がるにつれ、宗教復興の波が次々と国中を洗い、1790年代に始まって1812年の米英戦争後まで続いた。

その復興運動の頂点にあった所が1820年代後期のニューヨーク州西部である。そこには富を求めて西へ移ってきたニューイングランド人たちが人生の意義を捜して宗教に目を向けていた。ある人々は自己の権威を振りかざして古代の福音の回復をいろいろと試みたが、こういった人々をアメリカ宗教史では復古主

義者と呼んでいる。彼らはしばしば、救い主の再臨が切迫しているという熱烈な信仰を唱えた。

最も活動的な復古主義者グループのひとつはディサイブル教会と呼ばれ、彼らは創始者のトーマス・キャンベルおよび息子のアレクサンダーにちなんでキャンベル派とも呼ばれた。後に予言者ジョセフ・スミスの親友となったシドニー・リグドンはその最も有名な説教師のひとりであった。シドニー・リグドンはキャンベル派に加わる前はバプテスト教会の信者であった。そのほかにもディサイブル教会には後に立派な末日聖徒となる求道者が数人いたが、その内のひとりがパーレー・P・ブラットである。彼らが最も引かれたのは、信仰、悔い改め、バプテストマ、聖霊の賜という新約聖書の基本原則の回復を強く主張した点であった。しかし新しい改宗者の中には、キャンベル派に救いの儀式を執行する正しい権能があるかどうかを疑う人々がいた。

ほかにイエス・キリストの真の福音を求める人々の中に、西部ニューヨーク州のジョセフ・スミスの家族があった。父のジョセフ・スミス・シニアと母のルーシー・マック・スミスはふたりともニューイングランド生まれである。ニューハンプシャー州の農場でもバーモント州の農場でも、石の多い土壌や早霜や不作、チフスの流行などで家族はしばしば困難な目に遭ってきた。1816年にはついに、スミス一家は8人の子供を連れて西方に移住した。そして西部ニューヨーク州の緑に包まれた丘のバルマイラの小村近くに開墾地を開いた。50ヘクタールの農場に屋根裏を寝室にした2間の小屋を建てた。後にこの開拓小屋の隅に小さな物置きが増築されている。

家族は生活の糧を得るために働かなければならなかった。父のジョセフはカエデの樹液から砂糖を取り、息子たちと一緒に井戸を掘り、手おけやたるを作って売った。ルーシーは油布のテーブルカバーを作り、パンやパイを焼いて市に出した。近所の人々はスミス家の人々を信頼できる働き者の一家と見るようになった。

こういう田舎で教育の機会も限られていたが、スミス家の子供たちは年に3カ月程学校に行き、読み書きと算数の基礎を学んだ。中でもジョセフ・スミス・ジュニアは特に本に関心を持ち、独学で勉強した。ジョセフは地方新聞も読み、青年討論クラブにも入った。母のルーシーは後でジョセフを「とても静かで、気立ての良い子」だったと語っている。ジョセフは両親を尊敬し、愛と真心をしばしば示した。長じてからも、快活な人柄で大勢の友達ができた。

スミス家はどこの教会にも属していなかったが、家族一緒に聖書を勉強していた。1819年頃にはバルマイラからマンチェスター一帯の教会について研究し始めたが、その年にメソジスト派がスミス家の農場から16キロ程離れたピエナで年1回の大会を開いた。教派の方針を審議するために大勢の牧師たちが集まり、大会後、彼らは当時の慣例通り村々に出て行って野外集会や伝道集会を開いた。こうしてバプテスト派や長老派の伝道師たちは改宗者を獲得するために巡り歩いていたのである。そしてルーシー・スミスと娘のソフロニアと息子のハイラムとサミュエルが長老派教会に加入し、1828年頃まで教会に集っていた。しかし、ジョセフ・スミス・シニアとウィリアム・スミス、それにジョセフ・スミス・ジ

ュニアはどの宗派にも加入しなかった。

そういう牧師たちの福音伝道はジョセフ・スミス・ジュニアを啓発するどころか幻滅させたのである。彼は熱狂的とも思える信仰復興の運動こそが信者たちの間の混乱ぶりを示すものと考えていた。ジョセフは1835年にこう述懐している。「私はだれが正しくだれが誤っているか、分からなかった。しかし自分だけは正しくあろう。それが私にとって一番大切なことだと考えていた。」(「BYU 紀要」9:248, 1969年春)

ジョセフは改宗者の争奪戦を演じている宗派のどれにも加入しなかったが、当時あったキリスト教の各派を入念に研究し、調べ、思索した。その結果、新約時代の教会は地上に現存せず、人類は「真実の生きた信仰から背反している」という結論に至った。(「BYU 紀要」9:279) ある日、彼は聖書を勉強していてヤコブの手紙の中に、祈りによって神の知恵を求めよという靈感された勧告の言葉を見いだした。(ヤコブ1:5 参照) ジョセフは、これ以上不安の中に身を置きたくなければ古代の使徒の言葉通りにするしかないと考えた。

1820年の春、まだ15歳にもならない少年のジョセフ・スミスは、自宅近くの人けのない森の中でひざまずき、祈った。その重大な朝について彼が後に語った説明によれば、ジョセフ・スミスはその時自分の救いと人類の幸福のことを深く考えていたという。もっと端的に言えば、ジョセフは真実の教会があるとすればどの教会に加わるべきか知りたかったのである。ところが、祈り始めたジョセフは非常な苦悶を経験した。祈ろうとすると恐るべき不思議な力に捕らわれて語ることができないのである。もはやこれまでという思いが

回復の時代

頭をよぎり、だれかが歩いて来る気配を感じたと思うと、すぐに暗闇に包み込まれてそのまま負けてしまうかと思われた。驚く少年ジョセフがそれでも救いを求めて心の中で祈り続けると、悪の力は消え、代わって輝く光の柱が森の中のジョセフを囲んで下りてきた。その非常な明るさの光の中にふたりの輝く御方が見えた。ひとりがジョセフの名を呼んで話し掛け、もうひとりを指しながら「こはわが愛しなり、彼に聞け」と言われた。

御父と御子にまみえるという神聖な示現を通してジョセフの疑問は答えられた。救い主はジョセフに、罪は赦された、どの教会も正しい教えのすべてを持っておらず、権能もなく、完全な福音は将来彼に知らされると告げられた。

ジョセフは自分が神とまみえたことを家族

や親しい友人に話した。この話のあるひとりやの牧師にしたところ、牧師はジョセフの話を鼻であしらい、現代に示現や啓示があるはずはないと言った。ジョセフが再び神からの導きを得るよう備えている間にもその話を信じる者もいれば、逆にあざける者も大勢出てきた。しかしそれを通して、ジョセフ・スミスは自分と同じように神の救いの教えを求める人々を知ることになったのである。そうした人々の多くは1800年代初頭の信仰復興運動を契機に宗教に目を向けた人々であった。

最初の示現があつてから3年半の間、ジョセフ・スミスは普通の農夫として平凡な日々を送っていた。後に語るように、ときどき陽気な仲間と交際して若気の余り軽率な行動を取ることもあった。それは生来の快活さから来るちゃめっ気といった程度でしかないのだ



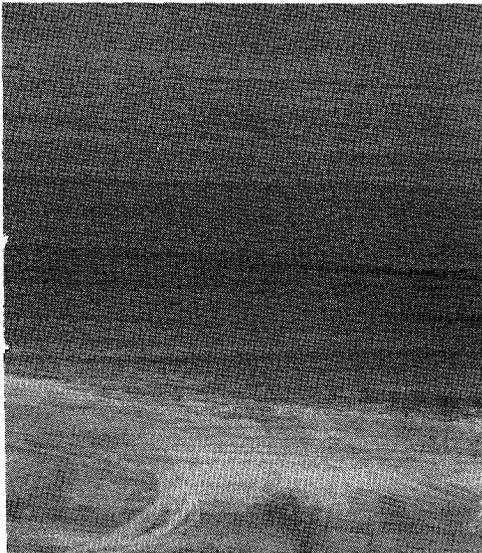
が、そんな行為を示現で受けた神聖な忠告に反しているのではないかと次第に感じ始めるようになった。

そんな思いが頂点に達した17歳の時、ジョセフ・スミスは1823年9月21日、自室に引きこもって祈り始めた。すると突然、部屋中に光が満ちて、ひとりの天使が現われた。自ら神の使いであると称するその天使は、1400年前にアメリカ大陸にいたニーファイの民の最後の記録者、モロナイであると言った。モロナイの言葉にジョセフは自分の使命を改めて自覚させられた。そして、モロナイから、近くの丘にアメリカの古代住民と彼らの間に伝わった救い主の教えについて記した神聖な版が埋められていると告げられた。モロナイはその夜と翌朝にもう2回現われて同じ言葉を繰り返した。ジョセフは、毎年そのクモラの

丘へ行き、自分の使命に備えて教えを受けるように言われた。ついに1827年9月22日、ジョセフにその版が託された。

この4年の準備期間に、スミス家の生活がとりたてて変わったということもなかった。相も変わらず一家は生計のために働いていたが、まだ抵当に入っていて地所は借りた形ながら、木造の家を新築した。その家の完成を見ずに1823年11月19日、長男のアルビンが亡くなった。アルビンは死ぬ直前に、約束が成就するようモロナイの教えを忠実に守れとジョセフを諭した。

家計を助けるために、ときどき若いジョセフやほかの子供たちも日雇いの仕事に出ることがあった。ジョセフは1825年10月に、人を使って廃坑になったスペイン人の銀山に埋まっているという宝を掘らせていたニューヨー



サスケハナ川に入る
オリヴァ・カウドリとジョセフ・スミス

回復の時代

ク州ベインブリッジのジョサイア・ストーウェルの所へ働きに行った。ストーウェルはジョセフの話からむだな宝捜しをあきらめることにした。しかし、ジョセフが銀山で働いたことから、彼には埋もれた宝のありかを突きとめる霊力があるという噂が流れた。この出来事は非常に重要な意味がある。というのは、これがジョセフを陥れようとする人々の、一連の法廷闘争の発端となる出来事となったからである。

ストーウェル家で働いていた間、ジョセフはアイザック・ヘイル家に下宿したが、そこで娘のエマと知り合った。ふたりは1827年1月18日に結婚し、パルマイラの近くのスミス家の農場に移った。その秋、4年目のしめくりに予言者はクモラの丘でモロナイから古代の版を受け取った。また同時に、版と共に石の箱に取められていたウリムとトミムという2個の透明な石を使って翻訳を行なう力も授けられた。ジョセフ・スミスは、その石が胸当てにくくりつけた弓のふちにはめられていたことを説明し、次のように語っている。「私はこのウリムとトミムを使い、神の賜と力によって記録を翻訳した。」(「教会歴史」4:537)

ジョセフがこの神聖な記録を手に入れるや、それを盗もうとする者が出てきた。予言者は、樺の木のかばみや豆樽や炉石の下など、数回金版の隠し場所を変えた。結局エマの父に勧められてペンシルベニア州ハーモニーに引越すことに決めた。ジョセフとエマには240キロの旅をする費用もなかった。そこで金版に関するジョセフの言葉を信じていた裕福な農場主のマーテン・ハリスが50ドルを援助してくれた。

翻訳の仕事が始まると、マーテン・ハリスは版の写しを合衆国東部に住む学者の所へ持って行った。彼はそこで、コロンビア大学で古典研究に携わる有名なチャールズ・アントン教授とニューヨーク在住の医師、サミュエル・L・ミッチェル博士にジョセフ・スミスのしていることを話した。ふたりともその変体エジプト文字を解読できず、マーテン・ハリスはジョセフの仕事が確かに神のみ業であることを確信して帰宅した。この事件はモルモン経(IIニューファイ27:6—20)に語られている予言の成就でもあった。その後数カ月間、マーテン・ハリスは予言者が古代の記録の初めの部分を翻訳する間、筆記者を務めた。彼は後に、モルモン経の3人の見証者のひとりとなった。

マーテン・ハリスが手書きの原稿の最初の116ページを借り出したのは、まだ翻訳半ばの1828年初夏のことである。それは、おそらく信者ではないハリスの妻の不注意か計略によってなくなったか、盗まれたかしたのであろう。その結果翻訳はしばらく中断した。そして啓示により再び作業を始めた時には、しばらくの間エマが筆記をした。幸い、マンチェスターのタウンシップでスミス家に下宿していた巡回教師のオリヴァ・カウドリがそのことを聞き付けて興味を持ち、ペンシルベニア州ハーモニーまで調べにやって来た。そして1829年4月の上旬にジョセフの筆記者となった。予言者がカーテン一枚を隔てて原文を一語一語訳すかわら、モルモン経の大半を記録したのはこのオリヴァ・カウドリであった。

ジョセフ・スミスはこの時期に多くの啓示を受けた。明らかに主は、回復されたイエス・

キリスト教会の土台を作るに当たって、この年若いしもべを導いておられたのである。教会の組織に先立つひとつの重要な段階に1829年5月15日の出来事がある。ジョセフとオリヴァは記録を翻訳している最中に、罪の赦しを得るためのバプテスマについて読んだ。彼らはそのことについてもっと知りたいと思い、ジョセフ・スミスの家に近いサスケハナ川の岸辺の森に入った。そこで祈っていると、バプテスマのヨハネが光の雲に包まれて現われ、ふたりの上に手を置いて彼らにアロン神権を授けた。バプテスマのヨハネはふたりに正しいバプテスマの方法を教え、ジョセフとオリヴァは天使の勧めに従い川の中で互いにバプテスマを施し合った。それから1829年6月末までに、古代の使徒であるペテロ、ヤコブ、ヨハネが聖霊の賜を授ける権威や教会を組織する権威を持つメルケゼデク神権を回復した。この神権時代初の長老、および使徒となったジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリは、こうして救いの儀式を執行し、地上に神の王国を作る直接の神聖な権能を受けたのである。

ジョセフは真の教会の再建を待ち望みつつ、1829年7月1日にモルモン経の翻訳を完了した。ニューヨーク州フェイヤットのピーター・ホイットマー・シニアの家においてであった。予言者の仕事を援助しようという信者たちの小さな集まりは次第に大きくなり始めた。そしてその支持者の中にオリヴァ・カウドリ、マーテン・ハリス、デビッド・ホイットマーの3人がいた。彼らは天使から金版を見せられ、その証人となった。このほかに友人や家族など8人が版に手を触れ、同じ証をした。その両方の声明はモルモン経と一緒に印刷された。ジョセフ・スミスは1829年6月11日に

版權を取り、8月にはバルマイラのエグバート・B・グランディンと新しい聖典の印刷契約をした。マーテン・ハリスが初版の5千部にかかる3千ドルを払うことにし、結局農場の一部を売って費用を工面した。こうして1830年3月下旬、モルモン経の初版の装丁本が配布された。

教会を組織する時は今や熟していた。1830年4月6日、30人余りの人々がフェイヤットのホイットマー家の丸太小屋に集まった。この神聖な場に集まった人々の内の6人が、法律に従って正式な組織発起人となった。ジョセフ・スミス・ジュニア、オリヴァ・カウドリ、ハイラム・スミス、ピーター・ホイットマー・ジュニア、デビッド・ホイットマー、サミュエル・H・スミスの6人である。出席者全員が、「第一」および「第二」の長老と称されていたジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリを自分たちの指導者として受け入れた。

こうしたほんのささやかな人々の集まりから始まった教会の組織は後年非常な勢いで大きくなっていった。着実な伝道活動によって教会が発展するにつれ、神権の中の他の職が設けられ、管理体制も一層複雑化していった。そうした発展の中で教会の正式名が定められた。現在は教義と聖約の20章として知られている啓示の中でこの教会は「キリストの教会」と呼ばれることが告げられた。人々は「モルモン民」という蔑称を使い始めていたが、一般には数年間「キリストの教会」という名が用いられた。やがて1838年4月26日の啓示により、「末日聖徒イエス・キリスト教会」という名称が告げられ、以来この名が確立した。(教義と聖約115:3—4参照)

とりわけ教会が組織された直後の数カ月は

回復の時代

重要な期間であった。この若い教会が他の宗教組織とどう違っているかを、知識欲旺盛な求道者たちに説明しなければならなかったからである。モルモン経の予言者たちがはっきりと示して下さった福音の諸原則を一軒一軒説いて回った。現代の啓示、生ける予言者、神権を有する唯一の真の教会を求めることの大切さ、裁きの日に備えて主の戒めを守るべきことなど説かれたのである。

初期の末日聖徒の宣教師たちの精力的な活動は嘲笑と反感を買い、暴力ざたになることさえあった。1830年の夏にはジョセフ・スミスが二度も捕えられ、治安びん乱罪にかけられようとしたが、証拠がないために放免された。やがて聖徒たちはわずらいから逃れることのできる場を求めてニューヨークを去ったが、人々の反対はかえって信者たちの団結を助長するだけであった。

教会員は回復の良きおとずれを広めようとする召しにすぐさま応じた。どの改宗者も自分を将来の宣教師と自覚した。ジョセフ・スミスは1829年の啓示の中で、「されば汝らもし神に仕えんと望むならば、汝ら神の業に召さるるなり」(教義と聖約4：3—4)と告げていた。教会設立後の2カ月間に、正式に宣教師制度が確立された。予言者の弟のサミュエル・スミスは初めて宣教師として召された者のひとりである。彼は幾らメッセージを伝えてもよい結果が得られず落胆したが、彼の手を経て渡されたモルモン経によってブリガム・ヤングや多くの人々が後に教会に加わっている。

新しい教会員の宗教的背景と言えば、それが全くまちまちで皆、初期の末日聖徒の長老たちが説いて回っていた地方の出身であった。

彼らは長年探し求めてようやくこの福音を見いだしたといった者ばかりであった。そんな初期の改宗者の典型とも言える人が、パーレー・P・ブラットである。彼は18歳でバプテスト教会に入った。しかしキリストの教会を見いだしたという満足感が得られず、4年後にキャンベル派に転向した。彼はシドニー・リグドンの説教に感動しつつも、救いの儀式を執行する権能にまだ疑問を抱いていた。彼が23歳になる1830年にオハイオ州を離れ伝道旅行に出掛け、ニューヨーク州ニューアークの近くでモルモン経のことを知った。パーレー・P・ブラットはモルモン経を読んでその教えを信じ、伝道の途中でジョセフ・スミスに会いにパルマイラへ向かった。そしてこの福音に改宗し、メルケゼデク神権を受けて、今度は回復された福音の教師として伝道の旅を続けたのであった。

こうして宗教の真理を求めてやまない人々が、1820年にジョセフ・スミスに初めて与えられた教え、すなわちイエス・キリストの権威やキリストの教会は既存の教会には認められず、それらはやがて主によって選ばれた予言者を通じて回復されるという宣言を次第に受け入れるようになっていった。そしてこの最後の神権時代にこの地上に神の王国を築く大いなる業は1830年を期してその草創の姿をはっきりと見るのである。

☆

☆

教会および世界史年表

教会

- 1796 ジョセフ・スミス・シニアとルーシー・マックが、バーモント州タンブリッジで結婚。
- 1801 ブリガム・ヤング、バーモント州ウィッチinghamで生まれる。
- 1805 ジョセフ・スミス・ジュニア、バーモント州シャロンで生まれる。
- 1807 ウイルフォード・ウッドラフ、コネチカット州ファーミントンで生まれる。
- 1808 ジョン・テイラー、イギリス、ミルンソープで生まれる。
- 1814 ロレンゾ・スノー、オハイオ州マンチユアで生まれる。
- 1816 ジョセフ・スミス・シニアの家族がニューヨーク州パルマイラに移る。
- 1818 ジョセフ・スミス・シニアの家族がニューヨーク州マンチェスターに移る。
- 1820 ジョセフ・スミスの最初の示現。
- 1823—27 天使モロナイの訪れ。
- 1827 ジョセフ・スミス・ジュニア、エマ・ヘイルと結婚。
- 1829 アロン神権、メルケゼデク神権の回復。3人の見証者モルモン経の金版を見る。モルモン経の翻訳完了。
- 1830 モルモン経の出版、教会が組織される。
- 1831 聖徒たち、オハイオ州に集まるよう啓示によって指示される。

世界

- 1803 合衆国がルイジアナ地方を獲得。英国とフランスの間で戦争勃発。
- 1804 ナポレオン、パリで皇帝となる。
- 1804—26 ラテンアメリカの国々の独立。
- 1806 イギリス、奴隷貿易を廃止する。
- 1807 最初のキリスト教（プロテスタント）伝道者ロバート・モリソン中国に到着。
- 1812—15 1812年戦争（英米間の戦争）
- 1814 最初の蒸気機関車が走る。
- 1814—15 ウィーン会議。
- 1815 ナポレオン戦争終結；ゲント条約
- 1820年代 ウィリアム・E・チャニング、ユニテリアニズム運動を指導。
- 1823 モンロー宣言。
- 1825 イギリスに初めて鉄道敷かれる。
- 1829 ギリシア独立。
- 1830 フランス、ベルギー、ポーランドにおける革命；ドイツ、イタリア、スイス、スペイン、ポルトガルにおける反乱、ディサイブル教が広まる。
- 1830年代 ウィリアム・ミラー、キリスト再臨説を唱える。
- 1831 ベルギー独立。

教会史跡を巡る 写真の旅

ノヴー、パルマイラ、ファーウェスト、カートランド——これらの地名は皆、私たちにとって深い意味を持っている。というのは、この神権時代の最初の予言者ジョセフ・スミスが生活し、働き、教会のために啓示を受けた場所だからである。また奇跡や不信仰、喜びや悲しみ、霊的な顕現や背教が見られた所でもある。初期の教会が置かれていたこれらの地において、人々は大いに霊性を高め、その結果、後の世の人々から尊敬される数多くの人物を生んだ。これら尊敬される人物として、ブリガム・ヤング、ジョン・テイラー、パーレー・P・ブラット、エドワード・パートリッジその他、大勢の人々がいる。インデペンデンス、ファーウェスト、カートランドなどの地で、初期の聖徒たちは暴徒や頼りにならない官吏、教会内部からの反逆者や背教者たちによって試しを受けた。

これから今日存在する教会史跡を紹介したいと思う。現在ノヴーは、聖徒たちが住んでいた頃と同じように回復するために多くの手が増えられている。しかしほとんどの史跡は、様相が大きく変わり、当時をしのばせる面影はない。家々は改築や増築が施され、教会歴史に登場した頃の建物に比べるとはるかに豪華なものとなっている。中には完全に破壊されたものもあり、そこに建物があつたことを示す土台や記念碑だけが残っている。その一方、穏やかな川の流れと、肥沃な畑、緩やかな起伏の続く丘は、150年前の姿そのままである。

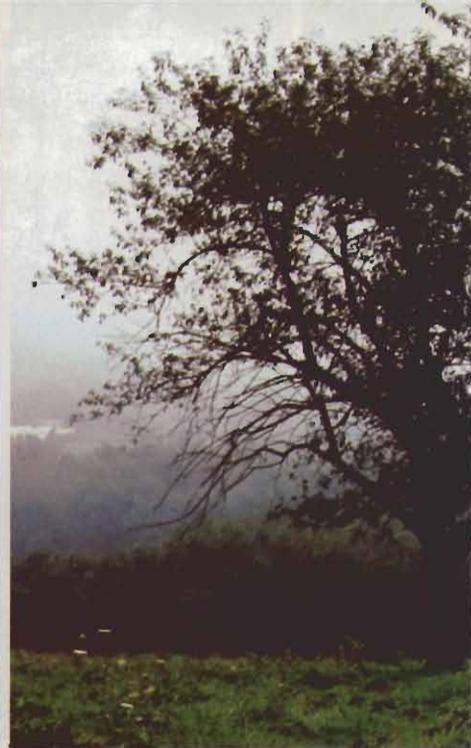


(上) マサチューセッツ州トップスフィールド、スミス一家が住んでいた昔の家。(中央左) バーモント州、タンブリッジの学舎、ジョセフ・スミス・シニアがシャロンのマック農園に住んでいた頃、ここで教鞭を執っていたと思われる。(中央右) バーモント州シャロン、予言者ジョセフ・スミスの出生地。(左下) バーモント州タンブリッジ、ジョセフ・スミス・シニアとルーシー・マックが結婚した所。



(p. 26, 左) バーモント州シャロンにあるジョセフ・スミス記念碑。ジョセフ・スミス生誕百周年を記念して建立。(p. 26, 右上) ジョセフ・スミス・シニアの家、バーモント州ノーウィッチ。(p. 26, 中央右) 同じくジョセフ・スミス・シニアの家、ニューヨーク州バルマイラ。(p. 26, 右下) ニューヨーク州バルマイラの市街地。(p. 27, 左上) 最初の示現を受けたニューヨーク州バルマイラのジョセフ家近くの小さな森。(p. 27, 左下) ニューヨーク州バルマイラ、スミス家の農園の近くを流れる小川、ここで初期の頃のバプテスマが行なわれたと思われる。(p. 27, 右) ジョセフ・スミス・シニアの家から示現を受けた小さな森に通じる道。





(左上) マーテン・ハリスの家、ニューヨーク州バルマイラ。この石造りの家はマーテン・ハリスの最初の家ではなく、1849年に建てられた。最初の家は火災で焼失した。(左下) アロン神権回復記念像、ペンシルベニア州サスケハナ川付近の、実際に起こったと思われるところに建てられている。(右上) ペンシルベニア州ハーモニー近くのメルケゼデク神権が回復されたと思われる場所。



(中央下) ニューヨーク州フェイヤットにあるピーター・ホイットマー・シニアの家と農場。1830年4月6日、ここで教会が組織された。約7平方メートル四方の丸太小屋は写真右下の隅のところにあった。(右下) ジョセフとエマが結婚して初めて住みつけたペンシルベニア州ハーモニー近くのサスケハナ川の景観。





(p. 30, 上) アロン神権の回復があったサスケハナ川岸。(p. 30, 中央左) ジョン・ジョンソンの家, オハイオ州ハイラム。(p. 30, 中央右) ジョセフ・スミス・ジュニアの店, この店の2階で予言者の塾が開かれる, オハイオ州カートランド。(p. 30, 左下) バプテスマが行なわれたカートランドのオハイオ川。(p. 30, 右下) ジョセフ・スミス・シニアの家, オハイオ州カートランド。(p. 31, 中央左) ミズーリ州インテペンデンスの神殿用敷地。(p. 31, 左下) ミズーリ州ファーウェストの神殿用敷地。(p. 31, 右) カートランド神殿。



1. マサチューセッツ州トップスフィールド

トップスフィールドには長年にわたってスミス家の地所跡が残っていた。ジョセフ・スミス・シニアは1771年7月12日、この地で生まれた。

2. バーモント州タンブリッジ

1791年、スミス家は一家をあげてバーモント州タンブリッジに引っ越す。タンブリッジで25歳のジョセフ・スミス・シニアは19歳のルーシー・マックと結婚。アルビン、ハイラム、ソフロニア、サミュエルが生まれる。

3. バーモント州シャロン

1804年、経済上の問題から、スミス家はシャロンのルーシー・マック・スミス家から農場を借りた。ジョセフ・スミス・シニアは夏の間は土地を耕作し、冬は村の学校で教鞭を執った。ジョセフ・スミスが生まれたのは1805年12月23日、マック農場にいる時である。

ジョセフ・スミスの生誕100年祭で、38.5フィート（約11.7メートル。1フィートを1年として予言者の生涯を表わした）の花こう岩の塔がこの跡に建てられ、予言者の甥にあたるジョセフ・F・スミスによって献納された。

4. バーモント州ノーウィッチ

ここでスミス家は3回続けて不作に遭い、ニューヨーク州パルマイラへの引っ越しを余儀なくされる。

5. ニューヨーク州パルマイラ

ジョセフ・スミス・ジュニアが10歳の時、一家はパルマイラへ引っ越す。2年後スミス家はパルマイラから南に約3キロ下った所で、樹木に覆われたままの未開拓の土地約40.5ヘクタールを購入した。彼らは最初丸太小屋に住んだ。数年後、長男のアルビンが先頭に立って、両親のために9部屋もある木造の家を建てた。

（パルマイラ、フォーコーナーズ）

パルマイラのメインストリートとハイウェイ21号線の交差点に、地元で知られている「フォーコーナーズ」がある。この四角には、メソジスト、長老、監督、バプテストの4つの宗派の教会が建っている。建物はどれも当時をしのばせるほどの古いものではないが、1820年の春、ジョセフが「どの教会が正しいのか」と森に入って祈る動機となった宗教論争を思い起こさせる。

（聖なる森）

1820年の早春、若きジョセフが祈るために入って行った聖なる森は、両親の家から西へ400メートルの所にある。彼は、神会とサタンについてこの地上のだれよりも深い知識を得て、森を出た。

（クモラの丘）

1823年から1827年にかけて受けた示現で、ジョセフはパルマイラの村から約6キロ南にある丘へ行くよう指示を受けた。この丘は後にクモラの丘であることが確認された。ジョセフはここで金板の入った石箱を見せられた。

p. 32の写真説明（左上）イリノイ州ノーヴーにある七十人会館、将来宣教師になる人の訓練学校として使われていた。（右上）アダム・オンダイ・アーマン。（中央左）七十人会館内部。（中央右）イリノイ州カーセージにあるカーセージの牢獄、1844年ジョセフ・スミス・ジュニアと兄ハイラムはここで殉教する。（下）イリノイ州のモントロース渡河地、向こうに流れる大河はミシジピ川。

(マーテン・ハリス農場)

モルモン経が翻訳されると、パルマイラの富農マーテン・ハリスは、初版の5千部の印刷費として3,000ドルを払うため農場を抵当に入れた。後に彼は3人の見証者のひとりとなった。

(スミス農場を流れる小川)

ここで何人かがバプテスマを受けたと思われる。

6. ペンシルベニア州ハーモニー

ハーモニーはエマの出生地である。1827年に結婚してから、ジョセフは義父から5.5ヘクタールの土地を200ドルで購入した。その後ふたりはこの敷地内に建てた、3部屋ある家に引っ越した。ジョセフとエマの最初の家である。サスケハナ川の土手の近くでアロン神権が回復された。それからしばらくして、ある人里離れた場所でジョセフはメルケゼデク神権を受けた。

7. ニューヨーク州フェイヤット

1830年4月6日火曜日、ジョセフ・スミス・ジュニア、オリヴァ・カウドリ、ハイラム・スミス、ピーター・ホイットマー・ジュニア、デビッド・ホイットマー、およびサミュエル・H・スミスは、ニューヨーク州セネカ郡フェイヤットのピーター・ホイットマー・シニアの丸太小屋に集い、教会を組織した。(29ページの写真(左下)の中で、教会が組織された場所は大きな白い建物ではなく、写真右下の四角に囲まれた場所である。)

フェイヤットで、モルモン経の3人の見証者は神に対する証を得た。また、教義と聖約に記録されている20の啓示は、高価なる真珠のモーセの言葉やエノクの予言と同様にこの地で予言者に与えられたものである。

8. オハイオ州カートランド

1830年12月に予言者は、オハイオ州カートランドの西方に会員(200名はいたと思われる)を集合させるようにという、啓示(教義と聖約37, 38章)を受けた。

46の啓示は、予言者がカートランドに住んでいる時に与えられた。

1832年12月初旬に、主はここに神殿を建設するように命じられた。神殿の献堂式は1836年3月27日に行なわれ、1週間後の1836年4月3日にはかの栄えある顕現が示されている。救い主イエスは教壇の胸欄にお立ちになって神殿を受け入れられた。続いてモーセ、エライヤス、エライジャが訪れこの時満ちたる神権時代の予言者にそれぞれの鍵を授けた。こうして神殿はその目的を十分に果たされた。

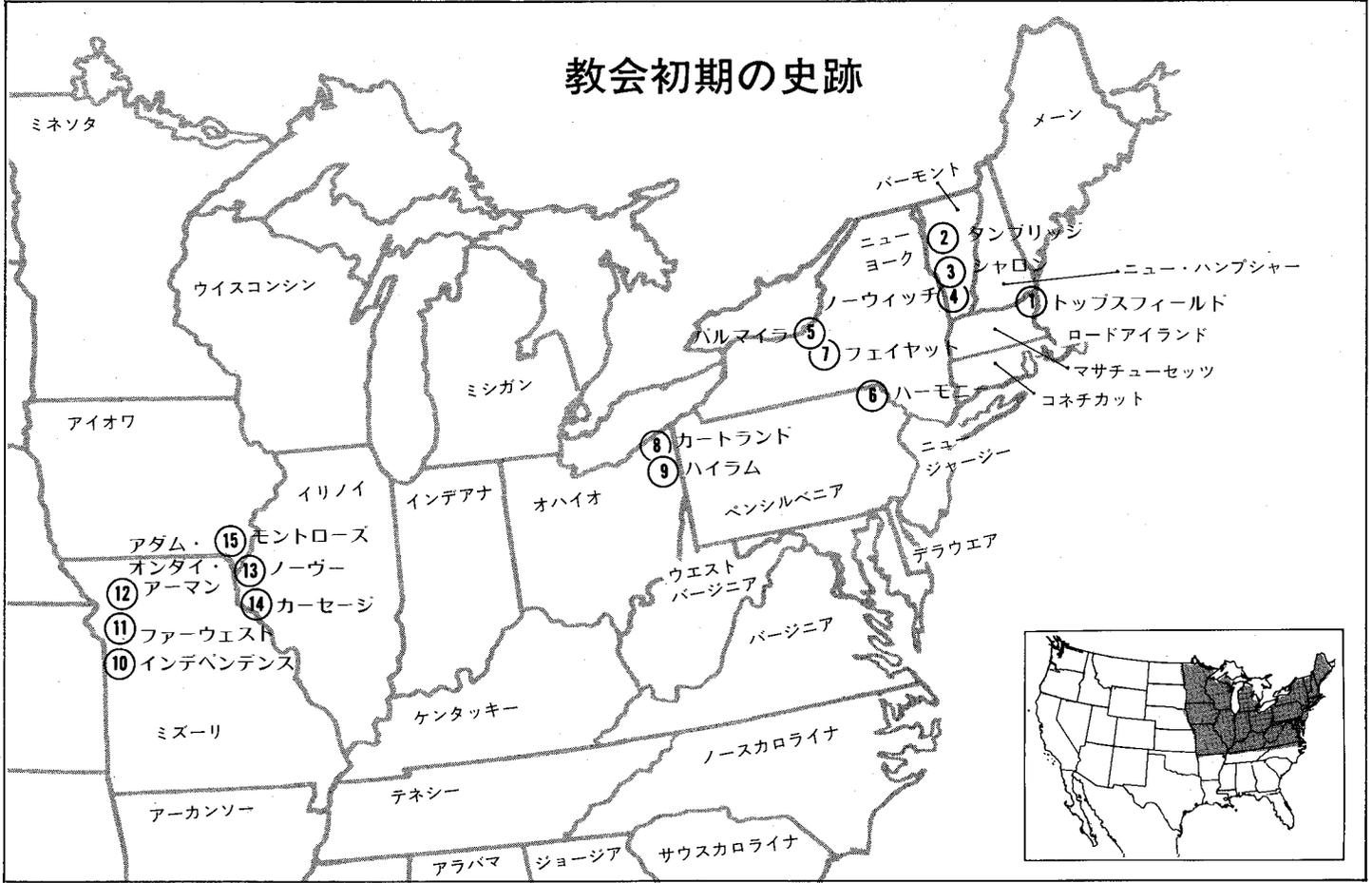
カートランドの時代には数百名の宣教師が送り出され、大管長会が組織された。ジョセフ・スミス・シニアは初代の大祝福師となった。またカートランドステーキ部ならびに、シオンの陣営が組織された。そして、十二使徒評議員会と七十人第一定員会も組織された。

9. オハイオ州ハイラム

1831年の秋から1832年4月にかけて、予言者ジョセフはハイラムにあるジョン・ジョンソン家に下宿していた。予言者はここから教会を管理した。また数多くの啓示を受け、聖書の靈感訳に取り掛かった。ここで大会が開かれ、集まった会員たちは「誠命の書」、すなわち現在の「教義と聖約」を出版することに賛成した。

1832年3月ハイラムで、予言者ジョセフとシドニー・リグドンは暴徒に襲われて体中にタールを塗られ、羽を付けられた上、手荒く扱われた。

教会初期の史跡



10. ミズーリ州インデペンデンス

1831年7月予言者はインデペンデンスに来た時、この地が「シオンの市」として計画され、奉獻されるべきであることを明らかにした。神殿がここに建てられるはずであった。教義と聖約の57章から60章はここで受けたものであり、1831年12月には約2500ヘクタールの神殿用地を購入している。しかしその後の2年間、末日聖徒は迫害に遭い、建設が始まる前にその地を去らざるを得なかった。

11. ミズーリ州ファーウェスト

1836年から1839年にかけてファーウェストに教会の本部があり、教義と聖約114章と115章、117章から119章はここで受けたものである。1837年夏に神殿建設の準備が始まった。そして1839年7月4日に定礎式が行なわれたが、それ以上工事は進められなかった。教会の第6代目大管長ジョセフ・F・スミスは、1838年11月13日にこの地で生まれた。

12. ミズーリ州アダム・オンダイ・アーマン

1838年5月予言者ジョセフ・スミスは啓示により、スプリングヒルに近いこの場所をアダムがこの世を去る3年前に子孫を集めて祝福した場所であると指定した。ここはまたいつの日か「アダムがその民を集め、彼らと共に評議会を開いて、人の子の来臨に備えをさせる」ところでもある (*Teachings of the Prophet Joseph Smith* 「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.157:教義と聖約116, 107:53; ダニエル7:9-14)。

13. イリノイ州ノーヴー

ノーヴーの聖徒たちにとって1839年から1846年は栄光に満ちた年でもあり、また悲惨な年でもあった。ヘブライ語で「美しい町」とい

う意味をもつノーヴーは、ミシシッピ川沿いの「コマース」と呼ばれた小さな町から発展した人口12042人の町である。立派な家々が立ち並び、開拓者にとってこの地での生活は最高であった。ノーヴーは、教会の組織が強化された地である。神殿が計画され、建設され、献堂された。予言者ジョセフ・スミスは、1842年5月4日に教会指導者にエンダウメントを授けた。後にこれらの儀式は、ノーヴー神殿で多くの聖徒たちに執行された。

扶助協会は、1842年3月17日、教会の女性のために組織された。1839年ノーヴーで教会用語の「ワード部」という言葉が知られるようになり、3つのワード部が組織された。

予言者と大祝福師、すなわちジョセフとハイラムの殉教後しばらくしてノーヴーは「ジョセフの町」と呼ばれるようになった。

しかし1846年聖徒たちがノーヴーから離れると同時に、その地の栄光は失われてしまった。神殿は放火によって焼き尽くされ、後に壁はトルネードに吹き倒されてしまった。

14. イリノイ州カーセージの牢獄

カーセージの牢獄は、1844年6月27日ジョセフ・スミス・ジュニアと兄のハイラムが殺された所である。彼らは誤って反逆罪に問われ投獄されていた。武装した暴徒たちは建物を襲撃し、ふたりの兄弟を射殺した。

15. イリノイ州モントローズ

聖徒たちがノーヴーを出発した1846年2月は、非常な寒さであった。そして、約1.5キロの幅で川の全面にわたって厚い氷が張ったため、幌馬車隊はミシシッピ川を渡ることができた。

現代における 神のみ声

1800年代にジョン・ワトソンというイギリスの牧師がこう記している。「エジプトの古墳から、イエスが語られた50の言葉を載せた15センチ四方の写本が発見されたとしたら、これは1世紀以来著わされたとの本にもまして重要なこととなろう。」(*New Witness for God* 「神への新たな証人」第2巻の序文よりB・H・ロバーツ長老著)

教義と聖約について最も興味あることをひとつ挙げれば、そこには予言者ジョセフ・スミスを通してこの神権時代の民に語られた救い主のみ言葉が載っているということである。

ブルース・R・マッコスキー長老はこう述べている。「おそらく、教義と聖約ほど聖徒たちにとって大きな価値を持つ書物はほかにないであろう。これは自分たちの書物、自分たちの時代における神のみ声である。」(*Mormon Doctrine* 「モルモンの教義」第2版p. 206)

教義と聖約の各ページの中には、ご自身の教会を再建しようとする主のみ手と、長年失われていた栄えある教義を伝える教えや勧告や慰めや個人々人に対する叱責と、民の備えとその時々必要に応じて順々に実際の教会組織が整えられてゆくさまを見ることができる。このように教義と聖約には種々多様な事柄が

記されているのである。シドニー・B・スペリー兄弟は次のように述べている。「主は、この神権時代の若き予言者に、回復された教会の組織について、また教会員に教えるべき教義や規律について徐々に教えてゆかなければならなかった。他の諸教会の教義や原則では用をなさない。実際、新しいぶどう酒は古い皮袋に入れることができなかつたのである。ジョセフ・スミスに対する主の啓示にはさまざまな問題が取り上げられている。新生の教会にとって非常に重要な数多くの事柄に指導者たちの注意を喚起することが必要だったのである。」(*Doctrine and Covenants Compendium* 「教義と聖約概論」ブッククラフト社1960 p. 17)

「この書には、人を救いに導く神の方法を理解するにあたって、主のしもべたちに必要な教会の原則と組織に関する詳細が数多く掲載されている。全能の神は、回復された教会が『全地の面に於ける唯一の真にして生命あり』(教義と聖約1:30)という教会であることをジョセフ・スミスにはっきりと示された。教義と聖約は墮落、贖罪、悔い改め、バプテスマ、神権、結婚、聖霊、死者の救い、人の経済的福祉、人類の究極の行く末といった基

本的な教義や概念にすばらしい啓蒙の光を投じている。これらおよびその他様々な事柄に関する知識は、真に悔い改めて神の王国に入りたいと望む人が必ずや理解すべきものであるが、この近代の聖典の中にそれが教えられているのである。」(「同上」p. 15, 16)

教義と聖約を読んでいくと、啓示がさまざまな方法でもたらされていることが分かる。予言者に対するみたまのささやき(教義と聖約20)、ウリムとトミムによるもの(教義と聖約3)、天使によるもの(教義と聖約2)、示現(教義と聖約76)など。また、主が子らにどう接しられたかを見ることもできる。個人に与えられたその人個人の啓示は、主が原則をどう用いておられるかを端的に示す貴重な例でもある。教義と聖約には物語風の叙述がほとんどなく、大半は重要な教義と教えである。そのために、どこをも抜かさずに注意して読むことが要求される。

今月号では、教義と聖約の研究に参考となる資料を収録したつもりである。主より下された多くの啓示の背景を理解するには、教会歴史の知識が不可欠である。そのため、これからは毎月教会歴史に関する記事を掲載することにしている。出来れば、各章とそこに記されている教義について洞察を試みる記事も載せたい。たとえば、今月号には第1章「主ご自身のはしがき」の概観が載る。

「教義と聖約」の書は、絶えざる啓示の原則を証する証人である。別の時代に書かれた他の聖典も真実であり、私たちにとって大きな価値を持つが、この教義と聖約は特に私たちの時代に対する主のみ言葉であるため、私たちにとっては特別な意義がある。

主ご自身のはしがき： 教義と聖約から望むこと

ロイ・W・ドクシー

教義と聖約を研究するということは、主イエス・キリストのメッセージを研究することでもある。このメッセージは、最後の時代すなわち時満ちたる福音の神権時代を生きる人人に与えられるものである。このメッセージについて主ご自身がどのように言われたかは、教義と聖約第1章に見ることができる。この啓示は1831年11月1日オハイオ州ハイラムで開かれた教会で与えられたもので、集った神権者によってこの書は「^{いましめ}誠命の書」と名付けられた。

主は、「汝らわが教会の人々よ」(教義と聖約1:1)と呼びかけて第1章を語られた。しかしこのメッセージは教会員だけに与えられたものではない。主は、このメッセージが「すべての人々に及ぶものなれば、一人ものがる者なし」(教義と聖約1:2)と言っておられる。だれでも、この神権時代のメッセージがすべての人に対するものであることがすぐに分かるだろう。主は続けて言われた。

「この末の世にわが^{いまし}選びたる弟子たちの口より、すべての人々に^{いまし}警めの声は及ばん。」(教義と聖約1:4)

それであるからこれらの啓示は「この世に住める人々」(教義と聖約1:6)に向けて公表されるのである。

主の僕たちが自らの義務を遂行しようとす

る時、彼らには地においても天においても結び固める権能が与えられる。この権能によって義人たちは永遠の生命に結び固められる。同時に主のメッセージを受け入れた後、福音を信じようとせず、主の僕に従わない人々は永遠の罰を受けるべき罪に結び固められる。(教義と聖約1:8-9)。そして主は降臨されると、「あらゆる人にその為せる行為に従って応報を与え、また彼らがその同胞を計りし秤を以て彼らすべての者を計」(教義と聖約1:10)られるのである。

どうして主の警告の声がこの時代、すなわちこの神権時代の人々に与えられるのだろうか。その答えは第1章11節から16節にある。

「この故に、主の声は耳ありて聞かんとするすべての人々に聞かれんため地の果にまで及ぶ。

されば汝ら備えをなせ、まさに来るべき事のために備えをなせ、そは主の来るは近ければなり。

而して主の怒りは燃え、主の剣は天にてうるおいたれば、今やこの世に住む人々の頭の下されん。

その時主の腕現われて、主の声もまた主の僕らの声も聞かんとせず、予言者にして使徒なる者たちの言にも耳傾けんとせざる者のそ

の民の中より絶たるべき日来るなり。

そは彼らわが儀式より離れ去り、わが永遠の誓約を破りたればなり。

彼らは主の義を打建てんために主を求めずして、あらゆる者おのが心のままに振舞いおのれらの神の姿を求むれども、その姿は人の世の像にしてその本質は一個の偶像なり。そは古びてついにバビロンにて、すなわちついに亡ぶべき大バビロンにて朽ちん。」(教義と聖約1:11-16)

このメッセージがこの神権時代の人々に与えられたのは、(1)主の再臨に先立って人々を備えさせるため(教義と聖約1:11-12)、(2)世に背教的な状態があるため(教義と聖約1:15)、(3)人々が自分たちの神を造るため(教義と聖約1:16)である。

17節から23節には福音がだれを介して回復されたか、この偉大な出来事の結果何が起こるかが明らかにされている。この神権時代の頭としてジョセフ・スミスが召された結果何が起こると、主は約束されたであろうか。そのことを思い浮かべていただきたい。このことから(1)教会歴史はこれらの主の約束を立証しているか、(2)私はこのプログラムのどの部分に参画してきたか、というふたつの疑問が



わいてくる。

「されば、主なるわれ、この世に住める人々に襲い来るべき禍を知れば、わが僕ジョセフ・スミス（2代目）を呼び天より語りて彼に誠命を下せり。

また他の者どもにもこれを世の人々に宣ぶ様誠命を与えられた、すべてこは予言者たちの記せし事の成就せんがためなり。

すなわち世の弱き者たち出で来り、人その同胞を議りまた肉の権力に依り頼まざらん様力ありて強き者たちを打ち破らん。

されどこは、あらゆる人々主なる神すなわち世の救い主の名によりて語らんため

信仰もまた世に高まり、

わが永遠の誓約は確立せられ、

完全なるわが福音、弱き者たち単純なる者たちによりて世界のいやはてまでも宣べられ、また王と統治者との前に宣べられんがためなり。」（教義と聖約1：17—23）

ここで、18節に示されている主が「誠命」を与えられた「他の者ども」とは、この神権時代に予言者ジョセフ・スミスを助ける人々のことであると指摘することは注目し値するものである。これらの人々の多くがすでに召され、啓示によって戒めを受けている。オリヴァ・カウドリ、シドニー・リグドン、ハイラム・スミス、パーレー・P・ブラット、オルソン・ブラットらをはじめ、大勢の人々がその中に数えられる。

「見よ、われは神なり。而してこの事を語り、これらの誠命はわれより出で、わが僕らの理解せんがため、彼らの言葉ぶりにならいてわが僕らの弱きままに与えられたり。

彼ら誤りたらば明らかにさるるを得、

知恵を求めたらば教えを授けらるるを得、

罪を犯したらば悔い改むるために懲しめらるるを得、

へり下りたらば強くせられて天の祝福を受け、また折々知識を与えらるるを得るためなり。」（教義と聖約1：24—28）

私たちは24節から28節の中に、何がすでに成就したかまた召しを受けて主のみ業のために自らの義務を忠実に果たす人々に何がもたらされるかを見いだすことができる。これらの祝福としては、理解の眼が開かれる、誤りが正される、知恵を求める時にそれが与えられる、罪を犯した時にこらしめを受け悔い改めをする機会が与えられる、へりくだることによって強くされ知識が与えられるなどがある。教義と聖約を学んでいる私たちも今日勤勉の度合によって同じような祝福を期待することができるのだろうか。

「またさきにニーファイ人の記録を受けたる後、誠にまことにわが僕なるジョセフ・スミス（二代目）は神の恩恵を通して神の能力によりモルモン経を翻訳する能力を与えらるるを得、またこの誠命を受けたる者たちもこの教会の基礎を置き、人に知られぬ所よりまた暗き所より、全地の面に於ける唯一の真にして生命あり而も主なるわれの悦ぶこの教会を明るみに出す権力を与えらるるを得。われ悦ぶとは一人一人を指すにあらざして、わが教会員全体に就きて言えるなり。

すなわち、主なるわれは罪を見ていささかもこれを許すを得ざればなり。

さりながら、悔い改めて主の誠命を行う者は赦されん。

而して悔改めをなさざる者は、彼のすでに受けたる光明までも取り去られん。そは、わが『みたま』常には人を励まじし、とは万群の主の言なればなり。」（教義と聖約1：29—33）

このメッセージに続いて、ジョセフ・スミスは聖なる召しを受け、彼を助ける人々も任命された。主は、予言者ジョセフ・スミスがモルモン経を翻訳する能力、また「全地の面に於ける唯一の真にして生命あり而も主なるわれの悦ぶ教会」(教義と聖約1:30)を興す能力を受けているという大切な事実を語っておられる。末日聖徒イエス・キリスト教会が世にあって保持している立場について、教会員、あるいは世の人々の心に疑いはなかった。主より与えられたこの声明は、最初の示現に関する教え、また、すでに永遠の生命に至る道はただひとつしかないことを明らかにした多数の啓示にさらに強い確証を与えるものである。

さらに、主は教会全体については喜ばれたが、教会員一人一人については、彼らの生活を完全にするためにまだしなければならないことが沢山あることを示しておられる。主は教会員たちに「罪を見ていささかもこれを許すを得ざればなり」(教義と聖約1:31)と言われ、罪を犯すのを許されていないことを彼らに悟らせようとしている。しかし、悔い改めた者には赦しが与えられる(32節)。これに反して、すでに光を受けた者で悔い改めない者は、「わが『みたま』常には人を励まさじ」(教義と聖約1:33)とあるように主のみたまを失うのである。

教会また地上の人々に対する主の基本的なメッセージで始まったこの偉大な啓示は、結びに当たって再びそのことを強調している。すなわち、主は全人類が来るべき裁きに対する警告の声に従うよう、また永遠の生命がイエス・キリストの回復された福音を实践することによって得られることを知るよう望んでおられるのである。このことは第1章34節から36節に繰り返される。

「主なるわれは、これらの事を進んですべての人に知らせんと思うなり。

それは、われは人々を偏り見る者にあらざれば、すべての人々をしてその日速に来るを知らしめんと思えばなり。而して地より平和の取り去られ、悪魔自らの領土を支配する時はなおいまだしといえども今や近きにあり。

されど主もまたその聖徒らを支配し、その真中にありてこれを統治せん。而してイツミヤ、すなわちこの世に下る審判のために天より降り来らん。」(教義と聖約1:34—36)

(「イツミヤ」は、啓示の中に「この世」として定義されている。これは邪悪な世を象徴している16節の「バビロン」と同義語である。「イツミヤ」は、イスラエル人に対して根強い敵意を持つエドムの国として知られている。)

教義と聖約を研究する人は、福音はその教えを实践する人々の生活に喜びをもたらすが、一方悪は不幸をもたらすことを知るであろう。また、世に裁きがあり、その裁きのひとつである戦争は大きな破壊を招くということが予言されていることを知る。1831年に宣言された「地より平和の取り去られ」という予言は、今や「地より平和の取り去られた」と置き換えるべきかどうかという問題については、すべての末日聖徒が世の状況に照らし合わせて判断すべきことである。(教義と聖約1:35)。第1章の主ご自身のはしがきは、与えられた啓示すべてが成就するという確信と、「この証は真実にして真理は永遠に変わるることなし。アーメン」(教義と聖約1:39)という神のみたまの証で結ばれている。

教義と聖約は、古代に与えられた真理に確認を与えるものである。また、近い将来起こる事柄や人の行く末について、他の聖典以上に知識を与えてくれる。さらにこの書には、これまで世に表わされた原則の中で最も素晴らしい原則が含まれているのである。

教義と聖約の 歴史的背景

ウィリアム・E・ベレット





ミシシッピ川側から眺めたイリノイ州ノーグーの景観。

写真：ジョージ・エドワード・アンダーソン〔1860-1929年〕

末日聖徒イエス・キリスト教会の特色のひとつは、主からの絶えざる啓示を主張することにある。末日聖徒にとって啓示とは、過去の時代に存在した神との同じ関係を再び回復する原則である。したがって、啓示は過去の時代だけのものでもなければ、聖書の最後の書が書き上げられた時点で終わった訳でもない。啓示は引き続き与えられているというこの主張は単なるジェスチャーではない。末日聖徒の書物の中にその大部分が末日に受けた啓示から成る一冊の本がある。この本は「教義と聖約」と呼ばれ、その内容や、それが世に現わされた状況を知らずに「モルモンイズム」を理解することはできないのである。教義と聖約の各ページには、教会の設立、組織と機能の特徴、他に比類することのない特異な歴史とプログラムの底に流れる偉大な力を理解する鍵が横たわっている。

教義と聖約の起原について語るとき、予言者ジョセフ・スミスを忘れることはできない。ジョセフ・スミスが初めて啓示を受けたのは15歳の誕生日を迎える前で、それ以来間隔はまちまちであるが、生涯啓示を受けてきた。

ジョセフ・スミスがいつからその重要な啓示を記録しはじめたかを確かめるのは困難である。さほど重要でない啓示の多くは生涯記録されなかった。しかしこれだけは確信をもって言える。それは1830年の春までに予言者ジョセフ・スミスは、モルモン経、神権の回復、教会の設立に関する多くの啓示を文字にしていたということである。

1830年4月6日、教会を組織する過程で予言者は啓示を受け、歴史記録者を任命してあらゆる物事を忠実に記録するように命じられた（教義と聖約第21章参照）。

そこでオリヴァ・カウドリが「歴史記録者」として任命された。1830年6月9日の大会で、彼は他の責任につくため解任され、新たにジョン・ホイットマーがその職に支持された。残念ながら、歴史記録者として彼らが残した記録は要約が多く、不完全である。予言者ジョセフは教会の設立当初から日記を忠実に書くことを怠らず、ほかにも様々な書簡や書類を収集していた。これらは1838年に自ら教会の歴史を編集し執筆する際に非常に貴重な資料となった。

1830年から1832年にかけてジョセフは引き続き啓示を受け、その内重要なものを文につづった。1831年の秋、彼は以前に記した啓示をひとつにまとめれば、書物として出版するのに十分な量になると感じた。そこでジョセフは、1831年11月1日と2日の2日間にわたってオハイオ州ハイラムで神権者大会を開催した。彼はこの大会で、編集した啓示を聖典として受け入れ、「誠命の書」という名称で出版することを提案した。編集された一連の記録をどの程度検討したのか、議事録には明確にされていない。幾らかの検討が行なわれ、議事録によれば、出席したある会員たちから批判を受けている。この批判の一部は、ジョセフ・スミスがその時公衆の面前で受けた啓示の中に見ることができる。（ここで、ジョセフ・スミスにより授けられた啓示の多くは、白日の下、他の人の面前で与えられたと言うのが適切であろう。彼は全能の神と交わるために、ひとり秘密の場所にもったり夜の闇に隠れたりしなかった。そうではなく、見ることも聞くこともできる同胞の面前で祈ったのである。その答えは予言者ジョセフ・スミス自らが彼らに語り、あるいは人々が聞

いている間に彼の書記に書き取らせた。この時に受けた啓示が、現在教義と聖約の第1章である。24節には次のようにある。

「見よ、われは神なり。而してこの事を語り。これらの誠めはわれより出で、わが僕らの理解せんがため、彼らの言葉ぶりにならいてわが僕らの弱きままに与えられたり。」

主のみ言葉は予言者の言葉の中にある。もしも予言者の言葉に誤りがあり、話の中にほとんどの人々に共通する文法的誤りがあると

すれば、それらが発見され訂正されるまでは、記述された啓示に文法上の誤りがあるのも当然であろう。それであってもその誤りは神の誤りではない。すべての啓示は神が人間を通して授けられたものである。聖書に描かれているように、そこに人間という要素が必ず存在する。詩人は神のメッセージを美しい詩に表現し、詩篇作者はそれに音楽をつける。一方、散文家は独自の文体で人の心に消すことのできないような刻印を押ししていく。こうし



クモラの丘とカナダグア道路

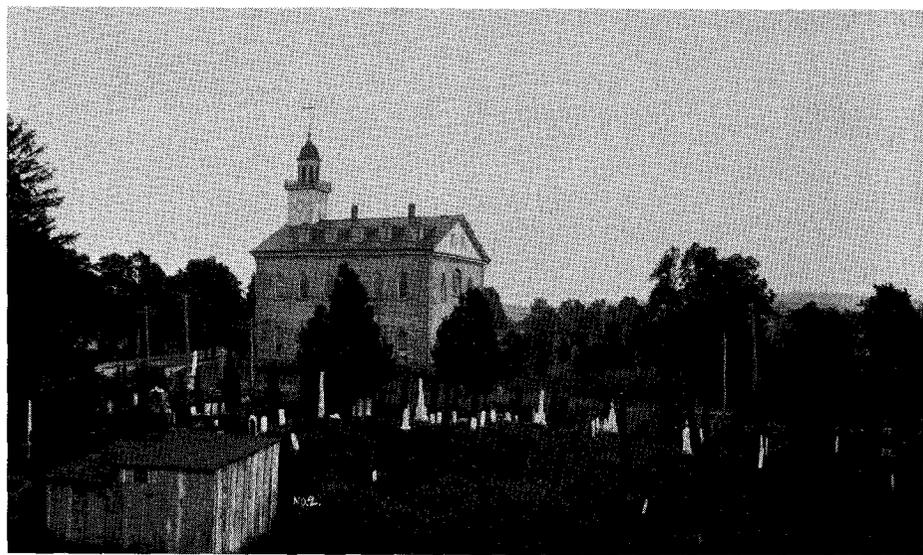
てモーセ、イザヤ、エレミヤ、ミカ、アモス、ハバククなどの書は表現の形式や習熟さは異なっているが、すべて人間が理解できるように予言者を通して彼らの言葉ぶりにならって語られた神のみ言葉である。

古代または近代の聖典に文法上の誤りを発見した人は、神の確かなみ言葉を秘かに攻撃して、その結果自分の信仰を失うことにならないよう注意しなければならない。

ところで1831年11月1日、オハイオ州ハイラムで開かれたその小さな集会に出席した人々のだれもが声を聞き、光を目にし、予言者ジョセフが書記に口述した啓示と同じ考えを心の中に感じたという証拠はどこにもない。

したがって、提示された様々な記録やその時与えられたメッセージが、全能の神からの啓示であることに疑いを抱く人がいたとしても、驚くには当たらない。幾つかの啓示には予言者ジョセフ・スミス自身の言葉遣いが顕著に表われていたことから、ウイリヤム・E・ムレリンなどは予言者に公然と向って、ジョセフは言わゆる啓示のいくつかを完全に自分の考えで書いたと批難した。

ムレリンの挑戦に、他の人々も同じ疑いをもっているかもしれないという気持ち相まって、予言者ジョセフは再び主に助けを祈り求めた。声に出して祈ったかどうか記録には明らかにされていないが、その結果さらに



オハイオ州カートランドのカートランド神殿。
ジョン・F・ベネット収蔵。

別の啓示を受けた。

「さて主なるわれ、汝らの眼前にある誠命の真理なることに就きて一つの証をなす。

汝らの眼は、今までわが僕ジョセフ・スミス（二代目）の上にある。汝らこれまで彼の言を知り彼の欠点を知れば、汝らは心中に彼に優る言葉を以て表すために知識を求めたり。これもまた汝らの知るところなり。

さて、汝ら今わが誠命の書より正にその中の最も小さきものを捜せ。而して汝らの中に最も賢き者を指定せよ。

すなわち汝らの中誰にでも、もし汝らの選べるわが誠命の如くを書くことを得ば、汝らわが誠命の真理なるを知らずと言うことをわ

れ正しとせん。

されど、もし汝らにして汝らの選びしものと同じものを書き得ざる時に、もし汝らわが誠命は真理なりと証せざれば罪ありとせらるべし。

汝ら、わが誠命には義しからざるところなきを知る。而して、およそ義しきことは天より来る。すなわち、光明の御父より来るなり。」
（教義と聖約67：4—9）

この勧告は、いかなる時代にあっても啓示を試すことのできる唯一の方法を示している。またこれは識者に対するチャレンジであり、それ自体非常にもっともなことである。これこそ神のみ言葉を知るためにしばしば繰り返



スミス一家が1830年末まで住んでいたニューヨーク州パルマイラの家。

される言葉「いざ、汝らの悟らんためにわれら共に論ぜん」（教義と聖約50：10）という聖句の意を表わしている。

マクレリンは、恐らく他の連中にけしかけられて、このチャレンジを受けたのであろう。彼は大会の席を立ち、ひとり自室にこもって主からの啓示と思えるものを書こうとした。11月2日、大会に再び姿を現わしたマクレリンは、目に涙を浮かべて予言者ジョセフ・スミスと兄弟たち、そして主に赦しを請うた。啓示を書くことができなかったのである。彼は主からの啓示をまねて書こうとしたができなかった。この試みを行なう人はだれでも同じ結果に終るに違いない。靈感を受けていない人間はその時心の中にある考えしか書くことができないので、それを文字に表わしたとしても、人類に古くから知られている概念の焼き直しに過ぎないことに気付くのである。その文章には文学的あるいは教育的な価値があるかもしれない。しかし、何ら明らかにされる新しいものがなければ、それは啓示ではない。これに反して、その言葉がこれまで知られていない概念や知識によって世の中を豊かにするものなら、同じ秤にかけてそれが啓示であることが分かる。しかも人々はこの新たに見いだされた真理を受け入れ、それに従わなければならないのである。

マクレリンの体験と証は、ハイラムに集まっていた少数の人々に大きな影響を与えた。一人一人が立ち上がり、予言者ジョセフと神の関係について証を述べた。それから、啓示を「誠命の書」として発行することが大会で認められ、出版を監督するためにオリヴァ・カウドリがミズーリ州インデペンデンスへ行くように任命された。

オリヴァ・カウドリは任命を受けてすぐには出発しなかった。冬が間近に迫り、雪で覆われた1,600キロにも及ぶ草原を横断するのは容易な業でなかったからである。こうして「誠命の書」の印刷が終わり、製本の準備が整ったのは、1833年の夏であった。ミズーリ州インデペンデンスのW・W・フェルプス印刷会社にある旧式の印刷機では仕事も思うようにいかなかった。表紙の材料も不足していたが、その必要もなくなるような事件が発生した。1833年7月20日、暴徒が印刷所を襲撃し、印刷機を持ち去ったうえに、活字をまき散らし、ほとんどの印刷物と紙を燃やしてしまったのである。この出版に携わっていた長老のひとり、暴徒の姿を見ると、大急ぎで印刷済みの「誠命の書」を腕いっぱい抱えて裏口から脱出し、納屋の干し草の下に隠した。こうして、わずか20部が守られたのである。

「誠命の書」の発行は事実上中断してしま



った。新たに印刷機を購入した時には、聖徒はすでにジャクソン郡から追放されており、「誠命の書」に掲載されていない多くの啓示が授けられていた。そこでもっと内容が豊富で広範囲にわたる出版物が必要となった。そして1834年8月の大会において新しい啓示の書を編さんするための委員会が設けられ、委員としてジョセフ・スミス、オリヴァ・カウドリ大管長補佐、ならびにシドニー・リグドン、フレデリック・G・ウイリヤムスのふたりの副管長が任命された。1835年8月17日、オハイオ州カートランドで開かれた大会で委員会からの報告があった。大会に提出された編さん書には啓示以外のものも含まれており、教会の問題に直接関係のない啓示が幾つか削除されていた。

委員会はこの編さんの書が「誠命の書」より内容がもっと記述的であると考え、新たに「教義と聖約」と名付けた。

「誠命の書」は、1831年11月の大会で計画

された時とは全く異なる環境と援助の下で、発行されるよう定められていたのである。初版の数冊の中から一冊が後の大管長ウィルフォード・ウッドラフの手に渡り、彼はそれを教会歴史図書館に寄贈し、現在他の版と共に保管されている。そのほか方々の収集家たちの図書館に保管されているものもある。

この教義と聖約は1835年8月17日の大会で提示され、教会員の賛成の挙手により聖典として認められた。

教義と聖約の第1版は、1835年の冬に発行された。全部で103章から成っていたが、今日のものとはすべてが同じ配列ではなかった。それから1844年に、111章から成る第2版が印刷された。予言者ジョセフ・スミスは死の直前までこの版のために働き続けた。教義と聖約への追補の大半は、1876年と1921年の版に見られる。1876年版で26章が付け加えられた。これらの章は予言者ジョセフ・スミスの説教や書簡からの抜粋と啓示であり、以前教会の新聞や刊行物に発表されたが、これまでの教義と聖約にはなかったものである。本文が初めて節に分けられ、脚注と参照聖句が加えられたのもこの年である。

1921年版の変更は、ほとんど印刷上の問題に留まり、この時初めて本文が2段組みになった。そして歴史上の記述や参照聖句が改訂された。

教義と聖約はこの140年以上の間に、様々の地域において多くの言語に印刷され、モルモン経と同様に時代と批判家の厳しい眼に耐えてきた。これは他の承認された聖典を証し、補うものでもある。今日、400万人近くの末日聖徒が、教義と聖徒は現代の人々に与えられた神のみ言葉であると考えている。



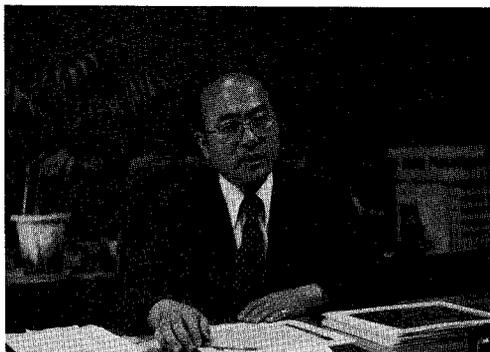
スミス家の子供たちが通っていた
バーモント州、ロイヤルトンの学校

教義と聖約 読書課程

1979年度福音の教義クラス用テキスト

1. 第1章
2. ジョセフ・スミス 2 : 1—4
3. ジョセフ・スミス 2 : 5—26
4. 第2章 ; ジョセフ・スミス 2 : 27—75
5. 第3, 6—10章 ; ジョセフ・スミス 2 : 59—67, 75
6. 第4, 11, 12, 14—16章
7. 第5, 17章
8. 第13, 18章
9. 第19章
10. 第20章
11. 第21—24章
12. 第25章
13. 第26—28章
14. 第29章
15. 第30, 32章
16. 第31, 33—36, 39—40章
17. 第37, 38章
18. 第41, 48, 51, 72章
19. 第42章
20. 第43—45章
21. 第46, 50章
22. 第47章
23. 第48, 49章
24. 第52—56章
25. 第57—59章
26. 第60—62章
27. 第63—65章
28. 第66—70章
29. 第71, 73章
30. 第74, 77, 86, 91, 113章
31. 第76章
32. 第78—83, 85, 92, 104章
33. 第84章
34. 第87, 90章
35. 第88章
36. 第89章
37. 第93章
38. 第94—97, 109, 110章
39. 第98, 99, 101章
40. 第100, 102章

「一つの清き民」となりて



七十人第一定員会会員

菊地良彦

私は、この新しい年を迎えるにあたり、兄弟姉妹の皆さんの上に主の大いなる祝福があり、皆さんがすべての点で清められるように祈っています。

主は次のように述べておられます。「われは、義しくわれに仕えんと欲する一つの清き民をわがためにおこさんと欲す。」(教義と聖約100:16)

これは、私たち日本人にも当てはまるみ言葉です。私たち日本人がこの「一つの清き民」として、エノクの市の兄弟たちと同じように主のみ前に立つためには、現代の生ける予言者の勧告に従うことが必要です。

キンボール大管長は、「もしも日本が日本人の宣教師を1,000名送り出し、最終的にモンゴルや中国に向けて10,000人以上の宣教師を派遣することが

汚れなく罪なき一個の義しき民として われに集められんためなり。

できるとしたらどうであろうか」(1974年4月地区代表セミナー)と言われました。以来、すでに5年が過ぎようとしています。

また、昨年6月にも大管長は次のように述べておられます。「すべての宣教師は伝道期間中に何千人という人にバプテスマを施すようになってもらいたい」(1978年6月新伝道部長セミナー)と。

大管長はこのような大きな期待を日本人に寄せておられるのです。昨年10月の地区代表セミナーで、キンボール大管長は「主のみたまは、現在地の面をくまなく覆っている」と言われました。

仮に、ひとりの宣教師が24カ月の任期中に1,000名の人々に、罪の赦しを得させる聖なるバプテスマを施すとします。言語訓練センターで過ごす期間を除くと、宣教師が実際に伝道するのは20カ月余りしかありません。20カ月に1,000名ですと、1カ月で50名となります。これを同僚とふたり併せますと、毎月100名ということになります。これが、スペンサー・W・キンボール大管長の抱いているビジョンです。

今、この偉大なみ業に参加し、キンボール大管長が抱いているビジョンを実現するのは、ほかならぬ私たち一人一人です。すべての教会員と求道者がこぞって、イスラエルの血筋を引く日本人の同胞を、神のみ使いである宣教師に紹介し、主の道に入るのを助けることは、私たちの大きな喜びです。「これ汝らが敵の力より免れ出で、汚れなく罪なき一個の義しき民としてわれに集められんためなり。」(教義と聖約38:31)

そのためには、ひとりの宣教師が300名位の求道者を持つ必要があります。同僚とふたりで600名の求道者を教えるのです。そこでこれらの人々を教えるには、もっと組織的で霊的な「グループ家庭集会」のようなものが必要に

私たちが清められる最大の近道は 「生ける水」を与える業に携わることである。

なります。この家庭集会では、7～10家族の人々を同時に教えます。宣教師は教えることに専念します。

七十人第一定員会会長のJ・トーマス・ファイアンズ長老が言われるように「きょうのワード部が明日のステーキ部となる」ためには、霊的で、しかもよく計画された会員と宣教師による組織的な伝道活動が必要です。

それが「求道者抄出法」という伝道方法です。今すぐこの方法について、あなたの監督や支部長にお尋ね下さい。これは私たち会員が、だれでもできる簡単な伝道方法です。この方法によりますと、幾何級数的に増加し、改宗者も驚異的な勢いで増えてくるはずです。皆さん全員がこの「求道者抄出法」に参加し、主の祝福を多くの人々と分かち合うことができるように願っています。

「この故に、汝の全身全霊を挙げて鎌を入れるべし。さらば汝の罪は赦され、汝は背に多くの刈り束をつけ加えられん。」(教義と聖約31：5)

願わくは、私たちがこの主のみ業に精力的に、しかも喜びをもって参加することにより、私たちの罪が赦されますように。私たちが皆、イエス・キリストの流された血によって清められ、徳高き、この聖なる道を共に歩めるよう祈っています。

「彼らこのことを為さば、彼らの衣よりその罪除かるべし。さらば、彼らわが前に潔白とならん。」(教義と聖約61：34)

キンボール大管長は、私たちが清められる最大の近道は「生ける水」を与える業に携わることであると言っておられます。私たちはこの新しい年の初めにあたり、勇気を持って、しかもみたまの助けを得て純粋な気持ちでこのみ業に邁進しようではありませんか。

ナイジェリア政府 伝道を認可

数年前のN・エルドン・タナー副管長のアフリカ訪問に続いて、この度、大管長会は教会国際伝道部の特別代表者として2組の夫婦をナイジェリアに派遣することを発表した。

この特別な召しを受けた2組は、ユタ州バウンテフル在住のレンデル・N・メイビー兄弟姉妹、およびソルトレーク・シティー在住のエドウィン・Q・キャノン兄弟姉妹である。彼らはナイジェリアの地で、1年間宗教活動を行なう認可を政府より受けた。

両者共かつてスイス伝道部で伝道部長として働いていた時、アフリカ各地の教会活動にも携わったことがある。

キャノン兄弟はこれまで国際伝道部の副伝道部長として、またキャノン姉妹は扶助協会中央管理会の第一副会長として責任を果たしてきた。

一方メイビー兄弟は、現在、地区代表の職にあり、メイビー姉妹も長い間扶助協会で数多くの責任を果たしている。

しかし大管長会は、これを期してナイジェリアにおける通常の伝道活動が開始されるとは考えていないとの発表である。

(右の絵の説明) 1847年春、ウィンタークォーターズを去る開拓者の一団。CCA・クリスチャンセン画。ブリガム・ヤング大学提供。

ウィンター・クォーターズはネブラスカ州オマハ近くにあり、聖徒たちが西方のソルトレーク盆地に向けて旅したときの最大の野营地。この地に移ってきた最初の冬のクリスマスの頃には、約3500人の人々が700余りの丸太小屋に住んでいた。CCA・クリスチャンセンはデンマークのコペンハーゲンで改宗した、デンマーク人である。この絵はこうした出来事を実際に体験した人々から直接聞き、その史実を基に描いたものである。彼は1857年、ノルウェー人の妻と共にユタに移住した。後日、この作品についてこう述懐している。「今私はこの絵を見て、主のみ手がこの絵に注がれていたことをはっきりと知ることができる。…歴史は私たちに多くのことを教えてくれる。また芸術を通して、聖徒の苦難の模様を後世の人々に分かるように語り伝えることができるのである。」



